

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

與平理想

國信義精

實大講堂出版

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|--------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 中国語 I a 中国語 I b | 08 09 08 09 | 通 期 通 期 通 期 通 期 | 2単位 2単位 2単位 2単位 | ジ ョ 徐 コ ク ギ ョ ク 国 玉 |
| [講義概要・学習目標] 『いさゝき中国語』(上)は初心者を対象として編集した。本テキストでは中国語会話の表現方法だけでなく、中国人の日常生活における習慣などについても触れ、中国語会話の機能や手帳を学ぶと同時に、コミュニケーションの場での常識やエチケットの習得にも役立つようにした。 一年間で初級文法と日常生活に必要な会話表現を一通り学ぶというのが目標である。 | [講義計画] 〈前期〉第1課～第12課 〈後期〉第13課～第24課 | | | |
| [成績評価の方法] 前・後期試験の成績及び平常点(朗読・暗誦・書き取り・出席状況)で総合評価する。 | [参考文献] 『精選日中・中日辞典』(東方書店) | | | |
| [教科書] 陳如・劉立新・劉虹共著『いさゝき中国語』(上)(中華書店) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| 中国語 I a 中国語 I b | 10 11 10 11 | 通 期 通 期 通 期 通 期 | 2単位 2単位 2単位 2単位 | チ ン 陳 フ ク 福 キ 輝 |
| [講義概要・学習目標] 基礎的な中国語の力を養うのが、1年間の目標である。入門の段階では発音練習を中心に、「拼音」(中国式ローマ字つりの発音)と「四声」(漢字の4つの声調)の修得を目指す。次に初歩的な会話を通して基本文型を学び、1年で発音(拼音を見て正しく読めること)とやさしい会話表現をマスターすることに重点をおく。間違いを恐れず、大胆に発音、発話することを望む。 中国語学習のポイントは次の3つ。 ①各課の単語、本文を全て覚える決心をする。 ②毎日必ず付属のCDを聞く。(中国語のリズムを体得するにはヒアリングが一番である。) ③本文を利用して、自分達の日常生活を中国語でいう努力をする。 また、授業の合間に各種ビデオやCCTV(中国中央テレビ局)の番組等を見て中国の変化や人々の生活ぶりも紹介する予定である。 言葉の学習は、その国を理解する一番の近道である。中国語を通じて、悠久5千年の中国の豊饒(ほうじょう)な歴史や文化に親しむとともに、「変化する中国」をよりリアルに感じとってほしい。 | [講義計画] 〈前期〉声調 発音 第1課～第10課 〈後期〉オーラルテスト 第11課～第18課 プリント教材 | | | |
| [成績評価の方法] 定期試験、小テスト、平常点(出席、書取、日頃の授業態度、積極性、宿題等)で総合評価する。 | [参考文献] 『プログレッシブ中国語辞典』 3500円 (小学館) 他に、旅行携帯用として『精選日中・中日辞典』 1748円 (東方書店) | | | |
| [教科書] 講義開始時に指示する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|------------------------|
| 中国語 I a | 1 2 | 通 期 | 2 単位 | リン 林 コウサク 宏 作 |
| 中国語 I b | 1 2 | 通 期 | 2 単位 | |
| [講義概要・学習目標] 中国語の語法と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟および基本文型・語彙の構造などの理解から日常生活を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意しておきたい。 | [講義計画] (前期)① 現代中国語概説 ② 漢語ローマ字 ③ 拼音と四聲 ④ 教科書第1課から第10課までの講読と発音練習 (後期)① 教科書第11課から第20課までの講読と発音練習 ② 発音テスト | | | |
| [成績評価の方法] 前・後期の試験および発音テスト(後期実施)。 | [参考文献] | | | |
| [教科書] 喬 炳南(編)『実用中国語』(中国語文研究会) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|------------------------|
| 朝鮮語 I a | | 通 期 | 2 単位 | チョン 田 ソンヒ 星 姫 |
| [講義概要・学習目標] 本講義は、大学で始めて朝鮮語を学ぶ人のための入門講座である。このクラスでは、文字や簡単な会話、必要最小限の文法事項など、朝鮮語の基礎を学ぶ。 | [講義計画] 1 文字(母音字・子音字)と発音 2 基本的な単語 3 基本的な文法 4 簡単な会話 5 生活と文化の簡単な紹介 | | | |
| [成績評価の方法] 試験、出席、課題への取り組みなどを総合的に評価する。 | [参考文献] 授業中、適宜紹介する。 | | | |
| [教科書] 宋連玉ほか著『ハングルをまなぼう・基礎編』白蹄社 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|--------|
| 朝鮮語 I b | | 通期 | 2 単位 | 徳成 外志子 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕 朝鮮語はアルタイ語族に属し、中国語とは全く違う北方系の言語である。助詞「てにをは」があることや語順など、文法事項が日本語と非常に似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語であり、逆に韓国・朝鮮人にとっても日本語は最も学びやすい外国語であると言える。また朝鮮文字ハングルは基本的にはわずか24の音素文字（母音10文字、子音14文字）の組み合わせによってできており、合理的で平易である。</p> <p>本講義では、朝鮮語の初学者を対象に、朝鮮語の文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習し、辞書を引ながら朝鮮語で書かれた文章を読解できるようにする。学生は朝鮮語 I a と I b 両方を併習することになるが、I a では発音や聞き取り、簡単な会話に重点を置き、この I b では文法や読解、簡単な作文（読み書き）に重点を置き進めていきたい。また、朝鮮の社会、文化等に対しても理解を深めるようにしたい。</p> <p>授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。</p> <p>韓国・朝鮮と日本は、お互いに最も近い隣国でありながら、お互いをよく知っているとは言えない状況にある。言葉を学ぶことは、隣国を理解する最も良い方法の一つであろう。</p> | <p>〔講義計画〕 前期：1. ガイダンス、朝鮮語の特徴 2. 文字、発音（テキスト1課～9課） 3. 辞書の引き方（10課） 4. 以下、テキストに沿って11課～15課あたりまで進む。</p> <p>後期：1. テキストに沿って16課～24課（最後）まで進む。 2. 簡単な読み物の副教材や歌、ビデオなど。</p> | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕 前・後期末に行うテストの比重が最も高い（60%）が、それに出席（30%）や普段の課題への取り組み（10%）を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。</p> | <p>〔参考文献〕 辞書等は授業で説明する。</p> | | | |
| <p>〔教科書〕 ・高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語』（白水社、1993）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 日本語 I a | | 通 期 | 2 単位 | 有 川 康 二 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書として専門書を読み、レポートを書く... 外国語でこれらの作業を行うには高度の外国語運用能力を必要とする。このクラスでは特に、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力に焦点を絞って訓練を行う。</p> | <p>〔講義計画〕 <前期><後期> 内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。また、毎回、読解材料の中の重要なパターンを使用した作文の宿題を課す。</p> | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕 出席・筆記試験</p> | <p>〔参考文献〕 辞書を常時携帯すること。</p> | | | |
| <p>〔教科書〕 読解資料はこちらで用意する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 日本語 I b | | 通 期 | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| 【講義概要・学習目標】 留学生の皆さんは、大学に入学するための日本語学習が目標であった時期を経て、今は日本語で新たな知識、情報を習得し、さらには自己の表現手段として柔軟に使いこなすことが求められる段階に入りました。留学生だけのクラスで、十分に配慮された言語学習カリキュラムに添った授業をしてくれる日本語の先生はもういません。大学での実際の授業で用いられる日本語は実に雑多で、戸惑うことも多いでしょう。でも、それを克服しなければ、他の学生と組みしていくことはできません。この授業では、大学での様々なコミュニケーションに必要な実践力を習得するために、主として「読む」、「書く」、に加えて「自分の意見を発表する」ことも学びます。具体的には、新聞記事や短い論文、テレビ番組等の映像を材料に、それを理解し、要約を文章にし、批判を加えた自分の意見を発表するという活動を中心に行います。 | 【講義計画】 授業の前半は、主として新聞記事を中心に「読んで理解する」ことを中心に行います。そして後半は、やや長めの文章を読み、その文章に関して出される設問に文章で答えたり、意見を口頭で発表します。時事的な問題については、映像資料も使う予定です。 | | | |
| 【成績評価の方法】 毎回の授業で出される課題による評価を中心に行いますが、出席はもちろん重要な条件です。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 教員が毎回準備しますので、特に指定しません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は必ず持参すること。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-----------|
| ドイツ語 II a | 0 1 | 通 期 | 2 単位 | 高 田 里 恵 子 |
| 【講義概要・学習目標】 大人になってから学んだ語学を「話せる語学」にするためには、書く練習が欠かせません。自分で書けた文章は、聞き取れる文章・話せる文章になっていくのです。また、大きな声で外国語を話してみることも大事です。外国語を話すことというのは、一種の「演技」でもあります。この授業を、恥ずかしがらずに堂々と「演技」をする訓練の場にしたいと思います。授業はプリントで進めていきます。和独の辞書は必要ありませんが、独和の辞書と初級の時に使用した文法の教科書を必ずもってきてください。 | 【講義計画】 1. 基本的文法の復習 2. sein と werden 3. 助動詞の使い方 4. 接続法に習熟する！ その他、一年間を通じて「数の表現」(お金・時刻・年代・日時など)を学んでいきます。 | | | |
| 【成績評価の方法】 前期と後期にテストをします。成績は、bのクラスの担当者と相談のうえ総合点で決定されます。なお平常点も考慮しますが、これについては、単に出席しているということではなく、授業への積極的な参加を評価します。出席していても、居眠りや私語はかえって平常点のマイナスになるでしょう。 | 【参考文献】 授業中に指示します。 | | | |
| 【教科書】 プリントを配布します。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| ドイツ語Ⅱb | 01 | 通 期 | 2 単位 | 坂 昌 樹 |
| 【講義概要・学習目標】 できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができれば良いと考えています。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語で習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるよう心がけたいと思います。わからないことがあったら何でも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語Ⅰで習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。 | 【講義計画】 ドイツ語で歌われている童謡、懐メロ、フォークソング、ロックなどを聞きます。 | | | |
| 【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ⅰa(初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。 | 【参考文献】 独和辞典とドイツ語Ⅰa(文法)の教科書を毎回持参してください。 | | | |
| 【教科書】 なし。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| ドイツ語Ⅱa | 02 | 通 期 | 2 単位 | 田 中 秀 穂 |
| 【講義概要・学習目標】 初級ドイツ語の授業で身につけた知識をもとに、自分でドイツ語の文を作ってみよう。テキストは、効果的に学べるように文法事項ごとに17課に分られ、身近な話題についての表現練習問題で構成されている。 練習問題には、必要な単語やヒントが分かりやすく添えられており、和独辞典は不要であるが、独和辞典は必ず持ってくること。 文法事項などで忘れたことや分からないことがあれば、そのつど説明するので、表現してみようとする姿勢を大切に積極的に参加してほしい。 | 【講義計画】 1 動詞の現在人称変化 2 名詞の性と格変化 3 命令形 4 複数形 5 所有冠詞と否定冠詞 6 人称代名詞 7 前置詞 8 分離動詞 9 語法の助動詞 10 形容詞の格変化 11 再帰表現 12 過去形 13 現在完了形 14 〃u不定詞句 15 受動態 16 関係代名詞 17 接続法 | | | |
| 【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ⅰa(初級文法)のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 著者：池内 宣夫 書名：発信するドイツ語 発行所：三修社 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| ドイツ語Ⅱb | 02 | 通 期 | 2 単位 | 山 崎 充 彦 |
| 【講義概要・学習目標】 <p>1 回生で学んだ文法事項を復習しながら、やさしい文章を読み解く力を養います。おぼろげになっている文法知識をさましながら、一步一步進めて行きます。初歩的なことがらでも、分からないことは必ず質問して下さい。</p> <p>ドイツ語の文体は、最初はとっつきにくいですが、非常に論理的な構造になっているので、パズルを解き明かすような気持ちで読んで行くと面白くなっていくはず。英語とは違う外国語を学ぶことで、物事を複数の側面から判断する能力を養って下さい。日本語・英語以外のチャンネルを持つことで、日本語や英語で得られる情報を絶対視しない柔軟な思考方法を身につけて欲しいと思います。</p> | 【講義計画】 <p>授業内容や進度は、原則としてテキスト通り</p> | | | |
| 【成績評価の方法】 <p>前期と後期の試験によります。成績評価はⅡaとⅡbの担当者が相談し、総合的に判断して決められます。</p> | 【参考文献】 <p>独和辞典必携</p> | | | |
| 【教科書】 <p>Oba, Takekawa, "Stadt und Kultur, deutsche Traumziele" 大羽武・竹川昭男、『ドイツの都市と文化（改訂版）』、白水社、</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| ドイツ語Ⅱa | 03 | 通 期 | 2 単位 | 竹 田 和 子 |
| 【講義概要・学習目標】 <p>このクラスでは、初級クラスで習った文法知識を生かして、ドイツ語作文に挑戦してみましょう。読む、聞く、話すと並んで書くこともとても重要な言葉の技能です。教科書は重要な文法事項を復習しながらドイツ語で表現する能力が得られるように作られています。また折りにふれて簡単な会話練習も行なうつもりです。</p> <p>授業のために和独辞典を買う必要はありません。ただし、外国語の習得には反復練習と暗記という地道な努力が必要です。予習、復習を欠かさず、授業には積極的に参加してください。</p> | 【講義計画】 <p><前期> 名詞の性と冠詞、動詞の現在、定動詞の位置、複数、疑問代名詞、人称代名詞、前置詞、未来、分離動詞、過去形、完了形</p> <p><後期> 形容詞の格変化・名詞化、受動、zu不定詞、比較、非人称、語法の助動詞、関係代名詞、指示代名詞、再帰動詞、命令形、分詞、接続法</p> | | | |
| 【成績評価の方法】 <p>前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。</p> | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 <p>著者 : 大岩信太郎 書名 : はじめての独作文(改訂版) 発行所: 朝日出版社</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---------------|------|------|---------|
| ドイツ語Ⅱb | 03 | 通 期 | 2 単位 | 村 田 佳 隆 |
| 【講義概要・学習目標】 とにかく復習から始めよう。一年次で学ぶ内容は、おそらく消化不良になっているであろうから、もう一度der, des, dem, denからしっかりと整理しなおすことを最初の目標にする。 毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。 | 【講義計画】 | | | |
| 【成績評価の方法】 前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 小島 基 『身近なドイツ!』 第三書房 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| フランス語Ⅱa | 01 | 通 期 | 2 単位 | 一ノ瀬 真 美 |
| 【講義概要・学習目標】 すでにフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、まとまった量のやさしい読みものを読みながら、フランス語になじみ、より深い読解力を養うことを目標とする授業です。訳読を中心としたものになりますが、必要に応じて、随時、文法事項のまとめやすすでに学んだ基礎事項の復習をおこないます。また、テキストを声に出して読むことで、フランス語の発音やリズムが身に付くでしょう。なお、辞書はかならず持参すること。 | 【講義計画】 アレクサンドル・デュマ・ペールの傑作復讐物語を平易なフランス語にリライトしたテキストを使います。 <前期> 42頁まで。 <後期> 43頁から 82頁まで。 | | | |
| 【成績評価の方法】 前期試験と学年末試験によって評価します。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 クリスチャン・ボームルー（著） 「モンテ＝クリスト伯」（朝日出版社） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|---------|
| フランス語Ⅱ b | 01 | 通 期 | 2 単位 | 本 多 雄一郎 |
| 【講義概要・学習目標】 本講義では、フランス語の初級文法を確実に身につけて、基本的な会話表現をしっかりと身につけることが目標です。そのため、テキストで様々な場面での適切な表現を学習していくとともに、オーディオで聞き取りを行ない、さらには、模擬の問題なども利用して表現力を養成していく予定です。 | 【講義計画】 前期・後期を通して「聞き取り」のためにオーディオを活用し、基礎的な表現を反復練習していく。 | | | |
| 【成績評価の方法】 前・後期試験の成績と平常点で総合評価する。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 佐藤 康著『コミュニケーションのための44のユニット』 駿河台出版社 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------------------------------|
| フランス語Ⅱ a | 02 | 通 期 | 2 単位 | オリヴィエ ビルマン Olivier Birmann |
| 【講義概要・学習目標】 実際に「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」作業を行い、前年度に学んだことを見直しながら知識を広め、理解を深めます。道具は使ってはじめて手になじみ、改善すべき点も明らかになります。フランス語の文法感覚も、フランス語をどんどん使うことによって、磨かれていくはず。なお教科書と連動して、フランス語Ⅱ a クラス用の聞きとり、作文、読書の練習のプリントを作ります。 | 【講義計画】 <前期> 自分について述べる、人を紹介する、評価する、提案する、承諾する、拒否する、執拗に求める 電話をする、情報を求める、会う約束をする 過去の物語、出来事の展開を話す (その1) <後期> 過去の物語、出来事の展開を話す (その2) 出来事の背景について説明する 事柄を確かでないこととして伝える、事柄を確実なこととして伝える 等々 | | | |
| 【成績評価の方法】 成績評価は、つぎの3つの合計により与えられます。 ① 出席 ② 提出物 ③ 試験 | 【参考文献】 参考文献 『フランス語がわかる』、著者：曾我祐典、白水社、1995 『コレクション フランス語 [3] 文法』、著者：西村牧夫、曾我祐典、白水社、1990 『フランス語へのかけ橋』、著者：春木仁孝、白水社、1999 | | | |
| 【教科書】 『ディアローグ』、大阪日仏センター、著者：オリヴィエ・ビルマン、木内良行 他、第三書房、1997 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------------------------|
| フランス語Ⅱb | 02 | 通 期 | 2 単位 | セシル モレル Cecile Morel |
| 【講義概要・学習目標】 フランス語会話 | 【講義計画】 聞き取りの練習を中心にする。 習った表現を實際に用いていることにより、 表現力を高めていく。 | | | |
| 【成績評価の方法】 出席、宿題、学期末試験 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 Dialogues ディアローグ 大阪日仏センター 第三書房 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------------|
| フランス語Ⅱa | 03 | 通 期 | 2 単位 | ロー・ヤマサキ・アニー |
| フランス語Ⅱb | 03 | 通 期 | 2 単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 Lecture et traduction mot à mot, diction, vérification des points de grammaire importants, vérification des conjugaisons, quiz du professeur et interview des étudiants. Mémorisation du texte. | 【講義計画】 <u>前期</u> 指定のテキストの第一章から 第十章までをおさめます。 <u>後期</u> 指定のテキストの第十一章から 第二十章までをおさめます。 | | | |
| 【成績評価の方法】 出席、平常点とレポートで評価します。 毎週小テストと小レポートを行います。 年間4回以上休むと合格はおおむねありません。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 ロー・ヤマサキ: 「Choses de la vie」 (自家出版) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-----------|
| スペイン語Ⅱ a | 01 | 通 期 | 2 単位 | フェリペ・カルバホ |
| スペイン語Ⅱ b | 02 | 通 期 | 2 単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 「HABLAMOS ESPAÑOL I」の前半の部分を使いながら最初の授業ではスペイン語の文法と表現を復習します。しかしこの一年の主要なテーマはこの本の後半の部分となるでしょう。各レッスンのスペイン語のテキストに関しては、スペイン語の文法の規則や表現を理解させることに努め、各学生は授業にノートと筆記用具を持参すべし。 | 【講義計画】 スペイン語会話のための易しい表現方法を学ぶ。教課書の第12課から第35課迄履習予定である。主に規則動詞と不規則動詞の直接法と易しい接続法を学ぶ予定である。各課を学んだ後、スペイン語「書き取り」も毎回予定である。 | | | |
| 【成績評価の方法】 テストと授業中の態度・応答・宿題・出席で決める。 | 【参考文献】 授業で紹介 | | | |
| 【教科書】 フェリペ・カルバホ 『HABLAMOS ESPAÑOL I』 大盛堂書房 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------------------------------|
| スペイン語Ⅱ b | 01 | 通 期 | 2 単位 | ゴンザレス デ リ オ Gonzales Dario |
| 【講義概要・学習目標】 【学習目標】 スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。 【講義概要】 本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話力を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけません。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。 国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。 | 【講義計画】 <前期> スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。訪問先での対応、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応（誕生日・クリスマス） <後期> 音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。 | | | |
| 【成績評価の方法】 定期試験の成績と出席状況との総合評価とする。 | 【参考文献】 東谷頼人（著）『すぐに役立つ はじめてのスペイン語』（日本放送出版協会） 宮城 昇（編）『スペイン語、ミニ辞典』（白水社） ヘレン・ディヴィーズ（著）『絵で見る辞典スペイン語入門』（洋販出版） | | | |
| 【教科書】 辞書の携帯を必要とする。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------------|------------|-------|
| スペイン語Ⅱa | 02 03 | 通 期 通 期 | 2単位 2単位 | 新 田 増 |
| 【講義概要・学習目標】 スペイン語Iでの既習の文法事項をふんまえ、初級文法をひとつうりすませ、より高度な文章の解説・作文力を養う。 | 【講義計画】 当初の2・3回は進路調整をかねて既習の文法事項の復習を組み入れながら導入を図り、レベル指定教材（下記）にそって、前期では第12課より第17課あたりまでとし、後期では第22課までを終了の予定である。 基本文法の復習を行いながら、より複雑な未習の文法事項を見ていくが、特に動詞の活用と、法・時制の用例に対する正確な理解と運用能力の強化を目指して、できるだけ多くの訳読・作文練習を行う。 予習・復習は不可欠であり、授業への積極的な参加・発表が望まれる。 | | | |
| 【成績評価の方法】 平常試験（小テスト・口頭試問・レポートを含む） | 【参考文献】 宮城 昇（編）『スペイン語、ミニ辞典』（白水社） 高橋覚二（著）『スペイン語 表現ハンドブック』（白水社） | | | |
| 【教科書】 岡田辰雄・ホセ・マタ（著）『現代スペイン語教本II』（大学書林） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|---------|
| スペイン語Ⅱb | 03 | 通 期 | 2単位 | 松 平 マリア |
| 【講義概要・学習目標】 スペイン語の紹介 基礎的な読解および書き方の教え | 【講義計画】 アルファベット・冠詞・性〔男性名詞・女性名詞・中性名詞〕形容詞・人称代名詞・反対語・同意語・疑問文・否定文・動詞・直接法現在文・数 | | | |
| 【成績評価の方法】 筆記試験 | 【参考文献】 ビデオ | | | |
| 【教科書】 ESPANOL PARA COMUNICARSE 【第三書房】 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| イタリア語Ⅱa | 01 | 通 期 | 2単位 | 武田 好 |
| | 02 | 通 期 | 2単位 | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力を高めることがⅡでの課題である。言語学習で重要なのは、「誰がどの場面で何のためにその言葉を用いるのか」を体感することである。授業では学生どうしの意見交換や課題発表の場が多くなると思っていてほしい。また、イタリア人講師の「生の」イタリア語に接してダイレクトに「イタリア文化」を吸収してほしい。二年間でイタリアで開講されるイタリア語講座の中級レベルに入学可能な力を身につけることが最終目標である。授業の方針は、担当者双方の協議によって統一されており、授業の学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。</p> | <p>【前期】イタリア語の構造のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ⅰの復習と実践練習 2. 未来形、比較級、関係代名詞 3. 過去時制のまとめ <p>【後期】実践運用能力と文法力の定着</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非人称のsiと命令法 2. 「イタリア文化」の訳読 3. 個人の「イタリア語力」の充実 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p> | <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p> | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| イタリア語Ⅱa | 03 | 通 期 | 2単位 | 和栗珠里 |
| | | | | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力を高めることがⅡでの課題である。言語学習で重要なのは、「誰がどの場面で何のためにその言葉を用いるのか」を体感することである。授業では学生どうしの意見交換や課題発表の場が多くなると思っていてほしい。また、イタリア人講師の「生の」イタリア語に接してダイレクトに「イタリア文化」を吸収してほしい。二年間でイタリアで開講されるイタリア語講座の中級レベルに入学可能な力を身につけることが最終目標である。授業の方針は、担当者双方の協議によって統一されており、授業の学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。</p> | <p>【前期】イタリア語の構造のまとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ⅰの復習と実践練習 2. 未来形、比較級、関係代名詞 3. 過去時制のまとめ <p>【後期】実践運用能力と文法力の定着</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非人称のsiと命令法 2. 「イタリア文化」の訳読 3. 個人の「イタリア語力」の充実 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。</p> | <p>授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。</p> | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|-------------------|-------------------|-------------------------------|
| イタリア語Ⅱb | 01 02 03 | 通 期 通 期 通 期 | 2単位 2単位 2単位 | パオラ ラヴァッレ Paola la Lavalle |
| [講義概要・学習目標] イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力を高めることがⅡでの課題である。言語学習で重要なのは、「誰がどの場面で何のためにその言葉を用いるのか」を体感することである。授業では学生どうしの意見交換や課題発表の場が多くなると思っいてほしい。また、イタリア人講師の「生の」イタリア語に接してダイレクトに「イタリア文化」を吸収してほしい。二年間でイタリアで開講されるイタリア語講座の中級レベルに入学可能な力を身につけることが最終目標である。授業の方針は、担当者双方の協議によって統一されており、授業の学習目標や成績評価の基準はすべて同一である。 | [講義計画] 【前期】 イタリア語の構造のまとめ 1. Ⅰの復習と実践練習 2. 未来形、比較級、関係代名詞 3. 過去時制のまとめ 【後期】 実践運用能力と文法力の定着 1. 非人称のsiと命令法 2. 「イタリア文化」の訳読 3. 個人の「イタリア語力」の充実 | | | |
| [成績評価の方法] 平常点。試験は授業中に数回行う。受講生各個の能力を総合的に判断して判定し、最終評価は担当者の協議によって決定する。 | [参考文献] 授業には小学館の『伊和中辞典』を携帯すること。 | | | |
| [教科書] 武田好・横山千里著 『Andiamo in Italia! (アンディアーモ・イン・イタリア)』 南欧図書 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|---------|
| ロシア語Ⅱa | | 通 期 | 2単位 | 国 松 夏 紀 |
| [講義概要・学習目標] 「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語のいろいろな文章を読んでいます。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、テープなどで、音を聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。 | [講義計画] 教科書は「ロシア語Ⅱb」と共通の同じものです。「ロシア語Ⅱa」では、奇数番号の課を読みます。（「ロシア語Ⅱb」では、偶数番号の課を読むこととなります。）この教科書の「まえがき」にあるように「内容は笑話、ロシアの地理、気候、料理、スポーツ、伝説、工芸、ジェスチャー、日露交流史、短編小説などいろいろです」ので、楽しんで読んでいけるのではと考えています。 最初は一語一語確認しながら読みますが、調子が出てきたら、単語にこだわらず、どんどん文脈を追っていきます。「練習問題」を通じて、会話や作文の練習も加味します。 | | | |
| [成績評価の方法] 必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、前期末・学年末の試験により、総合的に評価します。 | [参考文献] 教科書巻末に「単語集」がついていますし、もう辞書も持っていると思いますが、最初の時間に改めて辞書に関して案内します。また、ロシア語からさらに広くロシア関係の話題も随時提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。 | | | |
| [教科書] 笹尾道子・藤井悦子・杉山秀子・滝川ガリーナ著 『やさしいロシア語読本』 大学書林刊 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| ロシア語Ⅱb | | 通 期 | 2 単位 | 杉 野 ゆ り |
| <p>[講義概要・学習目標] 一年生で学んだ初級文法を復習しつつ、読解と作文の応用力を付けるのが目的です。 読み物の内容は、ロシアの笑い話、スポーツ、地理、日露交流史、小説など様々です。異文化交流を楽しむつもりで読みましょう。また、内容についてロシア語で問答し、会話も練習しましょう。 辞書を引いて怠りなく予習すること。一生涯勉強すれば、ロシア語はあなたの生涯の友人となるでしょう。</p> | <p>[講義計画] ロシア語Ⅱaと共通の教科書を使います。偶数課を勉強します。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法] 平常点（出席回数、小テストなど）と前後期の定期試験の点数によって評価します。</p> | <p>[参考文献] 露和辞典必携</p> | | | |
| <p>[教科書] 笹尾道子「やさしいロシア語読本」（大学書林）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|---------|
| 中国語Ⅱa | 01 | 通 期 | 2 単位 | 芦 田 茂 幸 |
| 中国語Ⅱb | 02 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 01 | 通 期 | 2 単位 | |
| 02 | 通 期 | 2 単位 | | |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中国語Ⅰで会話文や平易な文章を通じて基礎的な修得を終えた後、更に一歩進めて、中国人の日常生活に関わる文章を対象にして、読解力を高め、朗読中心の反復練習を行うことによって、言葉のスピードアップを心掛け、聞き取りの力をも養い、将来活用出来るまでにもってゆきたい。またテキストを通じて中国及び中国人に親しみを覚えてくれれば幸甚である。</p> <p>尚、テキストはクラス01,02いずれも同一テキストをa、b共通で使用する。既に中国語Ⅱを履修した学生も再度随意科目として履修出来るよう、テキストは毎年変えているので積極的に参加してほしい。</p> <p>辞書は必ず購入しておくこと</p> | <p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉声調・発音に留意して、平均2課に5講時を当て、2課毎に小テストを行い、修得を確実なものにしたい。 テキスト 1課～10課</p> <p>〈後期〉文法に重点を置きながら朗読中心の反復練習を行い、平均2課に5講時を当て、2課毎に小テストを行い、一層修得を確実なものにしたい。 テキスト 11課～20課</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期とも2課毎に小テストを5回行い、その平均点に平常成績（朗読・作文・暗誦・書き取り、及び出席状況）を加味して総合評価を行う。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>香坂順一編著「簡約現代中国語辞典」B6変型判〔光生館〕3,500円 藤 文山 監修「アクセス中日辞典」四六変型判〔三修社〕3,200円</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>相原 茂 / 戸沼市子 / 張雲明共著「北京カクログ」（朝日出版社）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|--------------------------------------|
| 中国語Ⅱ a | 03 | 通 期 | 2 単位 | ジョ 徐 コク ギョク 国 玉 |
| 中国語Ⅱ b | 03 | 通 期 | 2 単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 『中国語さらなる一歩』と『実用会話中級中国語』は、二人で中国語の初級をひとりで終えた学習者が、さらに一歩上の段階を学ぶことができるように編んだものである。 この授業では、読む、聞く、話す、書くという言葉の四つの能力を身につけることを目標にする。 | 【講義計画】 <前期>『中国語さらなる一歩』第1課～第12課 <後期>『実用会話中級中国語』第1課～第12課 | | | |
| 【成績評価の方法】 前・後期試験の成績は平常点(朗読・暗誦・書き取り・出席状況)で総合評価する。 | 【参考文献】 『精選日中・中日辞典』(東方書店) | | | |
| 【教科書】 竹島全吾監修 尹景春、竹島毅著『中国語さらなる一歩』(白水社) 于克勤著『実用会話中級中国語』(文理閣) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|--------------------|
| 中国語Ⅱ a | 04 | 通 期 | 2 単位 | カ 何 イ 為 |
| 中国語Ⅱ b | 04 | 通 期 | 2 単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 一年の時に習ったものを復習しながら、新しく出現する文法事項、表現文型を学び、より高度な会話力と読解力を身につけることが目標。 実際練習を中心に、適宜、文法等の説明を加える。 | 【講義計画】 原則的に半期はテキストの半分まで進み、一年間で一冊を終了する。 | | | |
| 【成績評価の方法】 小テスト(計10回程度)及び平常点(出席、暗誦、授業態度)で総合評価する。 | 【参考文献】 上野恵司著『中国語五辞典』 白帝社 上野恵司、顧明耀編『標準日中辞典』 白帝社 | | | |
| 【教科書】 蔡汝浩、鈴木基子、施小偉、丁鋒、長井真友子、白根理恵著『1111で学ぶ中国語Ⅰ』(白帝社) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|------------------------|
| 中国語Ⅱ a | 05 | 通 期 | 2単位 | リン 林 コウサク 宏 作 |
| 中国語Ⅱ b | 05 | 通 期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 中国語Ⅰで修得した発音と語法をふまえて、語彙をふやし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況および宿題の提出をもって平常点とする。 | 【講義計画】 <前期> 復習編(一)～(五)及び応用編第1課～第五課 <後期> 応用編第六課～第十四課 | | | |
| 【成績評価の方法】 平常点と前・後期の試験による。 | 【参考文献】 香坂順一(編)「簡約 現代中国語辞典」(光生館) | | | |
| 【教科書】 丁秀山・坂井田ひとみ(共著)「日常的対話」(金星堂) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|--------|
| 朝鮮語Ⅱ a | | 通 期 | 2単位 | 徳成 外志子 |
| 朝鮮語Ⅱ b | | 通 期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進める。併せて、簡単な朝鮮語の読み物、民話、童話から、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を教材に取り上げ、読書能力を高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。 また、朝鮮語で自己紹介をしたり簡単な日記や手紙を書いたりして、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。 ビデオやテープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。 韓国・朝鮮と日本は、お互いに最も近い隣国でありながら、お互いをよく知っているとは言えない状況にある。言葉を学ぶことは、隣国を理解する最も良い方法の一つであろう。 | 【講義計画】 前期：1. テキストの1課本文から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、15課当たりまで進む。 2. 簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 初歩的な作文と会話。 後期：1. テキスト16課から最後(30課)まで。 2. やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 作文や実用会話。 | | | |
| 【成績評価の方法】 前・後期末に行うテストの比重が最も高い(60%)が、それに出席(30%)や普段の課題への取り組み(10%)を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。 | 【参考文献】 辞書等は授業で説明する。 | | | |
| 【教科書】 李応寿著『やさしい韓国語講座』(語研) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 日本語Ⅱ a | | 通 期 | 2 単位 | 有 川 康 二 |
| [講義概要・学習目標] 大学の講義をノートを取りながら聴き、意見を述べ、教科書や参考書として専門書を読み、レポートを書く... 外国語でこれらの作業を行うには高度の外国語運用能力を必要とする。このクラスでは特に、大学の講義を受ける上で必要な日本語の読解力に焦点を絞って訓練を行う。 | [講義計画] <前期><後期> 内容に関する質疑応答を通して読解作業を行う。また、毎回、読解材料の中の重要なパターンを使用した作文の宿題を課す。 | | | |
| [成績評価の方法] 出席・筆記試験 | [参考文献] 辞書を常時携帯すること。 | | | |
| [教科書] 読解資料はこちらで用意する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 日本語Ⅱ b | | 通 期 | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| [講義概要・学習目標] 大学に入学して一年が過ぎて、日本語ですべてのコミュニケーションを行うことのむずかしさを十分自覚したと思います。日本語能力を高めるだけでは解決できない問題もありますが、やはり実践的な言語能力を養う努力は続けていかなければなりません。 この授業では、大学生に求められる日本語能力をさらに強化するためのさまざまな活動を行います。新聞の論説記事や、専門的な論文等を、批判的に読み、意見を文章にまとめ、発表するという活動を中心に行います。また、日本語教育に関心のある日本人学生にも、授業に参加してもらい、共同プロジェクトも行う予定です。自分に関心のあるテーマを設定し、共同で作業を進める中でお互いの考えかたや、勉強のしかたなどを知る機会にもなります。プロジェクトの成果は、最後にまとめて発表し、他のグループとの相互評価を行います。 | [講義計画] 授業は年間を通じて、新聞記事や論文を読み、理解し、議論し、自分の意見を文章にすることを中心に行います。後半には、日本人学生とのプロジェクトを始め、適宜その進行状況の報告を行います。 | | | |
| [成績評価の方法] 毎回の授業で出される課題に加えて、プロジェクトの成果も成績の対象となります。もちろん出席は重要な要素です。 | [参考文献] | | | |
| [教科書] 教員が準備しますので、特に指定はしません。ただし、自分に一番使いやすい辞書は毎回必ず持参してください。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|---------|
| 教育原理 I | 01 | 前 期 | 2 単位 | 竹 中 暉 雄 |
| | 02 | 前 期 | 2 単位 | |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の本質及び目的に関する事項」を内容とする。</p> <p>これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきながら、いざ「教育とは何か」と改めて問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。</p> <p>その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育目的の問題である。教育の目的は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。</p> <p>教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) で受けつけます。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>教育の本質</p> <p>1 教育の定義</p> <p>2 人間の教育必要性と教育可能性</p> <p>3 我・汝関係と教育関係</p> <p>4 教師と教育的タクト</p> <p>人間の脳と教育</p> <p>5 人間の脳の特異性</p> <p>6 遺伝と環境の問題</p> <p>7 生涯学習の必要性と可能性</p> <p>教育理念・目的の思想史</p> <p>8 近代教育論の始まり</p> <p>「合自然」の教育論</p> <p>9 「反合自然」の教育論</p> <p>10 児童中心主義の意義</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>数回の授業コメントカードおよび期末の論述試験による。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版 1997年</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 教育原理 II | 01 | 後 期 | 2 単位 | 竹 中 暉 雄 |
| | 02 | 後 期 | 2 単位 | |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育に関する社会的・制度的な問題」を内容とする。</p> <p>もともと教育とは個人的で私的な営みであるが、近代公教育は法令に基づき国家的制度として行なわれる。多額の公費を使用して子どもたちの学習権を平等に保障し、そのことによって社会有用の人材をつくろうとするのである。しかしその結果、個人の自由や個性が無視されてしまうことも起こってしまう。登校拒否という現象は、公教育制度について根本的な反省を迫るものである。しかしだからといって、学校制度というものを完全に否定することが正しいとも思えない。なぜ現在の学校教育は拒否されるのか、まずそこに内包される問題点について認識したうえでないと解決策は見つけられないであろう。</p> <p>学校の教師も法令によって制度的に守られている反面、さまざまな制約をうける存在でもある。学校の教師になるということはどういうことなのか、いろいろな具体例を出しながら考えていきたい。</p> <p>学校および教師の仕事の現実を知るためにビデオを2回見て、感想意見をそれぞれ発表していただくことも計画している。いずれにしても現実的な問題ばかりなので、質問・意見票をどんどん提出してほしい。E-mailも受けつけています (takenaka@andrew.ac.jp)。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>法令の中の教育</p> <p>1 義務教育と登校拒否</p> <p>2 家庭での就学</p> <p>3 進級・卒業の問題</p> <p>4 学習指導要録の問題</p> <p>5 指導要録の問題</p> <p>学校教師という職業</p> <p>6 教職の性質</p> <p>7 研修義務</p> <p>8 経済的待遇</p> <p>9 部活動指導</p> <p>10 教員定数</p> <p>11 教師と体罰</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>数回の授業コメントカードおよび期末の論述試験による。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版 1997年</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|-----|-------|
| 教育心理学 | 01 | 前期 | 2単位 | 林 陸 雄 |
| | 02 | 前期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 50分間の授業を持続・集中できない、落ち着きなく教室を徘徊する、絶えず間なく話し続ける、怒りっぽく切れやすい等といった生徒像が、最近、マスコミを通じて紹介されている。どうして、こうなるのであろうか。これは授業以前の問題であるが、現実の教室ではこれらの生徒抱え込んで一斉授業を展開しなければならない。その対応策はどうあればよいのか。 この教育心理学では、発達と学習を副題として、今日の生徒達のはまりこんでいる発達と学習上のもつれを理解・把握して、授業構成の一助としたい。 なお、教職課程における「教職に関する科目」は職能に直結しており、知識・技能・態度として一体的に修得しないと、実際場面で十分に活用することができない。受け身的で知識偏重的な学習態度では、例え単位を取得し、幸いに教壇に立てたとしても、教育実践は困難となろう。主体的・意欲的な学習態度で履修されることを期待している。 | | 【講義計画】 1. 発達とはなにか 2. 発達の特徴の概要 3. 身体的発達の特徴 4. 知的発達の特徴 5. 情緒的発達の特徴 6. 社会的発達の特徴 7. 乳幼児期の発達課題と指導 8. 児童期の発達課題と指導 9. 青年期の発達課題と指導 10. 学習過程の心理学的基礎 11. 学習の規定要因 12. 学習指導の形態と最適化 13. まとめ | | |
| 【成績評価の方法】 出席状況、授業毎の小レポート、期末考査の結果を総合して評価する。ただし、3分の2以下の出席者には評価しない。 | | 【参考文献】 授業中に適宜紹介する。 | | |
| 【教科書】 江見・柴山・酒井編著 教育実践のための心理学 I ー発達・学習ー 学術図書出版社 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|-----|---------|
| 教育方法学 | 01 | 後期 | 2単位 | 平 田 啓 一 |
| | 02 | 後期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 教育の方法と技術（情報機器および教材の活用を含む）に関する科目である。ここでは「教育工学」の名のもとに、1960年頃から研究されてきた授業設計、目標論、評価論などの考察と研究を内容とする。とくに、教育メディア論に重点を置き、コンピュータの教育利用は実習を通して、実践的指導力を身につけることを目的とする。5インチ2HDフロッピー・ディスク1枚が必要である。 | | 【講義計画】 第1部:テキストに従って、授業設計、目標設定、教育メディア、評価法など教育方法について約5週間講義する。 第2部:講義で得た知識を基に、CAI(Computer Assisted Instruction、コンピュータによる学習指導)の英語学習用教材を研究し、それを自作して自ら学習体験して、教授・学習過程を観察する。 | | |
| 【成績評価の方法】 レポート「CAI利用授業の設計と評価」(制作過程および学習評価について)および学生が作成した教材用フロッピー・ディスク | | 【参考文献】 シンシア・ソロモン著、岡本敏雄他訳、子供の学習とコンピュータ、パーソナルメディア 沼野一男他、授業を設計する、ぎょうせい 平田啓一、授業設計の演習、平凡社 | | |
| 【教科書】 平田、町田編著「新・教育の方法と技術」(教育出版)¥2,000 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 社会科教育法 | 01 | 前期 | 2単位 | 飯島敏文 |
| 【講義概要・学習目標】 昭和22年に、日本に社会科という総合教科が登場して、ほぼ半世紀を経た。その成立後、社会科は常に論議的であった。平成元年版の『学習指導要領』において社会科の教科枠組みの再編が行われたのはその現れの一つと言えよう。 受講生の諸君は、小学校から高校にかけて社会科の授業を受けてきたわけであるが、「教科」としての社会科の特質に思いを寄せることは多くなかったと思われる。 本講義では、社会科の前身を踏まえた上で、成立期の社会科の特徴を考察し、さらに、その後の歴史的経緯を顧みることとする。そのことを通して、現代において、総合教科としての社会科がいかなる意義を持っているのか、その実践上の課題はどこに存するか等の諸点についての理解を深める。 社会科に関する理解が「机上の空論」に陥らないように、講義においては、可能な限り、実践に即した具体的解説を試みることとする。 | 【講義計画】 〈前期〉①社会科の前身 ②社会科の成立 ③成立期社会科の特徴 ④社会科学学習指導要領の変遷 ⑤社会科の現代的意義 ⑥問題解決学習の社会科 ⑦社会科の授業分析 | | | |
| 【成績評価の方法】 出席、授業内小レポート、期末試験等の観点から総合的に評価して行う。 | 【参考文献】 講義中にその都度紹介する。 | | | |
| 【教科書】 無し | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 社会科教育法 | 02 | 前期 | 2単位 | 林 陸雄 |
| 【講義概要・学習目標】 社会科とは、暗記科目あるいは余談の多いおもしろい科目と見られがちである。しかし、本来の目標は中学生の社会認識能力を育成することにある。中学生も、一人の生活者として現実社会に生きている。その彼らがとらえている社会像と真っ向から切り結び合える授業を、どのように組み立て実践するのか。 社会科教育の目標と内容、授業実践に必要な基礎・基本について学習する。限られた授業回数でこれらの課題を遂行するのは困難である。全出席を守り、遅刻早退のないようにすること。 | 【講義計画】 1. 社会科教育の意義 2. 社会科の目標と教科構造 3. 社会科の教育課程 4. 社会科の指導計画 5. 学習指導と能力育成 6. 学習指導の形態 7. 学習資料の活用 8. 学習指導の評価 9. 教材研究と実地授業 10. 地理的内容の授業 11. 歴史的内容の授業 12. 公民的内容の授業 13. まとめ | | | |
| 【成績評価の方法】 出席回数、授業内の小レポート、期末考査の結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。 | 【参考文献】 授業の中で適宜紹介する。 | | | |
| 【教科書】 森 秀夫 著 『中等 社会諸教科教育法』 学芸図書株式会社刊 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 公民科教育法 | 01 | 後 期 | 2 単位 | 飯 島 敏 文 |
| 【講義概要・学習目標】 昭和22年に、日本に社会科という総合教科が登場して、ほぼ半世紀を経た後、平成元年版の「学習指導要領」において高校の「社会科」は「地理歴史科」と「公民科」に分かれた。 本講義では、「社会科」が「地理歴史科」と「公民科」に分割されるに至る経緯を明らかにした上で、「公民科」を「公民的資質の育成」にもっとも直接的に関わる教科として位置づけ、その特質と実践的課題を考察することを試みる。 | 【講義計画】 〈後期〉①公民教育とは何か ②公民教育の歴史 ③公民科成立の経緯 ④公民科の特徴 ⑤公民科の目標 ⑥公民的資質の育成 ⑦公民科の授業実践 | | | |
| 【成績評価の方法】 出席、授業内小レポート、期末試験等の観点から総合的に評価して行う。 | 【参考文献】 講義中にその都度紹介する。 | | | |
| 【教科書】 『高等学校 学習指導要領』 『学習指導要領解説 公民科編』 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 公民科教育法 | 02 | 後期 | 2 単位 | 林 陸雄 |
| 【講義概要・学習目標】 高等学校公民科について、年間計画の建て方、学習指導案の作成方法、授業実践の基礎・基本について体験的に学習する。 限られた授業回数なので集約的に授業を展開する。全出席を守り、遅刻早退をしないこと。 前期の社会科教育法とは相互補完的なので、必ず履修しておくこと。 | 【講義計画】 1. 公民科の目標と組織 2. 現代社会の教育課程 3. 倫理の教育課程 4. 政治・経済の教育課程 5. 倫理の授業例 6. 現代社会の授業例 7. マイクロ・ティーチング① 8. マイクロ・ティーチング② 9. マイクロ・ティーチング③ 10. マイクロ・ティーチング④ 11. マイクロ・ティーチング⑤ 12. マイクロ・ティーチング⑥ 13. 教育実習とその評価 | | | |
| 【成績評価の方法】 出席回数、授業内での小レポート、期末考査の結果を操業して評価を行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。 | 【参考文献】 授業の中で、適宜紹介する。 | | | |
| 【教科書】 森 秀夫 著 『中等 社会諸教科教育法』 学芸図書株式会社 刊 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 地理歴史科教育法 | 01 | 前期 | 2単位 | 野尻 亘 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、「地理歴史科」の教育は、どのようにあるべきか。</p> <p>単に知識の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえて、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史科教育の再構築を目指すこととする。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 学校における教科教育 陶冶と訓育 2. 地理歴史科の目標 3. 地理歴史科のカリキュラム構成 4. 教育実習と授業実践 5. 環境教育と自然に親しむ体験学習 6. 公害教育 7. 歴史教育と人権学習 8. 平和反戦と地理・歴史教育 9. 開発教育 10. 国際理解教育・多文化理解教育 11. 学校地理教育・歴史教育の目標と課題 12. 生涯学習社会と地理歴史教育</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進度と履修状況を見て決定する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>文部省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局 文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>使用しない</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 地理歴史科教育法 | 02 | 9月集中 | 2単位 | 古 田 昇 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>高等学校学習指導要領の解説、指導案の作成方法の解説、指導案作成、教材研究の方法、教科指導法、授業実習（代表者）等を行い、教職員としての資質を育成することを目指したい。</p> <p>本講義の受講生全員が、教員免許状の取得希望者であり、その多くが教育関係の社会活動に携わることをふまえ、単なる一方通行の講義に終わることなく、何名かの受講生に実習体験をしてもらう予定である。またその他の学生については、仲間の体験を自分のものとして共有できるような態度で受講されることを希望する。</p> <p>高校では、教えることになる地理・日本史・世界史の3科目のもつ性格、それぞれの専攻分野の違いに起因するいろいろな問題点がある。講義では、これのいくつかの事例を紹介し、より実感をもって地理歴史教育に関わる心構えをつくる一助となることを目指したい。</p> <p>また実務では、この3科目すべてを授業しなければならないことを前提に、その点をふまえて解説をしてみたい。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>①中学校・高等学校における教科指導の具体例の紹介 ②教科指導の方法と具体例 ③教諭の役割とクラス運営 ④学習指導案の作成と授業実習体験 ⑤前回の授業実習をふまえた実習 ⑥まとめ</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>講義全時間の積極的な受講はいうまでもなく、全員に学習指導案の提出をもとめる。評価はそれらを総合して行う。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>講義の中で随時指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>高等学校学習指導要領解説「地歴編」文部省 実教出版社</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|-----|-------|
| 英語科教育法 | | 前期集中 | 4単位 | 島田勝正 |
| <p>[講義概要・学習目標] 英語教師志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論(シラバス論、授業計画)、指導方法論、指導技術論(4技能、文法、語彙)教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。</p> | | <p>[講義計画] 1. ガイダンス(教育職員免許法)、教師論(英語教師の特性) 2. 教授・学習・評価(教授の役割) 3. 第二言語習得論1(習慣形成理論と生得理論) 4. 第二言語習得論2(学習転移) 5. 第二言語習得論3(誤答分析) 6. 第二言語習得論4(インプット仮説) 7. 第二言語習得論5(形式教授の役割) 8. 言語能力の分類 9. 文法教授(意識化活動) 10. 第二言語習得論6(有標性理論、教授可能性理論) 11. 目標論1(コミュニケーション能力) 12. 目標論2(学習指導要領) 13. 指導方法論(各種指導法概観) 14. リスニング(背景知識の活性化) 15. コミュニカティブアプローチ(機能シラバスと教授法) 16. スピーキング(情報格差活動) 17. リーディング(発問の種類と方法) 18. ライティング、語彙(記憶術) 19. 授業案、授業分析 20. テスティング1(妥当性、信頼性) 21. テスティング2(多肢選択型テストクローズテスト) 22. テスティング3(教育統計、項目分析) 23. マイクロティーチング 1 24. マイクロティーチング2 25. マイクロティーチング3 26. マイクロティーチング4 27. 定期試験</p> | | |
| <p>[成績評価の方法] 得点配分は以下の通り。(1) 課題提出(授業参加) 1回1.5点×24回=36点 遅刻=減点0.5点 (2) レポート24点 (3) 定期試験40点 *授業時間の3分の1(8回)を越えて欠席した場合、定期試験を無断で欠席した場合、レポートを提出しない場合は総合得点が基準点(60点)に到達していても単位を認定しない。</p> | | <p>[参考文献] 1. Richards, J., J. Platt and H. Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Second Edition.</i> Longman 2. 青木(編)「英語授業実例事典 I, II」(大修館書店) 3. 山田、望月(編)「私の英語授業」(大修館書店) 4. 青木(編)「英語科教育の理論と実践(理論編、学習指導編)」(現代教育社) 5. 青木(編)「英語授業の組立て」(開隆堂)</p> | | |
| <p>[教科書] 島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition) Reading Packet</i></p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|-----|-------|
| 商業科教育法 | | 前期 | 2単位 | 松原 勇 |
| <p>[講義概要・学習目標] 21世紀に向かって、商業科教員を目指す学生を対象にした高等学校教員免許取得のための必修科目である。現代の商業教育は国際化・情報化の急激な変化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、高度な専門的な知識・技術等の習得が不可欠である。学習指導要領では、経済社会の大きな変化に対応できる自己教育力の育成・心豊かな人間の育成等を目標としている。その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、教育理念のもと、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚をもって臨まなくてはならない。 本講は、経済社会の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に、年間授業計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。</p> | | <p>[講義計画] (前期) 1 商業教育の意義と目的 2 現在の商業教育 3 教育課程の編成 4 学習指導法(模擬授業の展開) 5 年間授業計画と教育評価 6 今後の商業教育の展望等</p> | | |
| <p>[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、併せて、学年末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。</p> | | <p>[参考文献] 文部省(編)「高等学校学習指導要領」(商業編)(大日本図書)</p> | | |
| <p>[教科書] 松原 勇(編著)「商業科教育法」(ぎょうせい)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 道徳教育の研究 | | 前 期 | 2 単位 | 徳 永 正 直 |
| 【講義概要・学習目標】 <p>いじめ・自殺、登校拒否、学級崩壊、凶悪化する少年非行などの子どもたちの問題行動に対処するために、道徳教育の充実・強化が求められている。とりわけ1997年の神戸児童連続殺傷事件以後、「こころの教育」の必要性が唱えられている。だが、子どもたちの荒れの根本原因は適切に把握されていると言えるだろうか？何故子どもたちの人権感覚は麻痺し、「いのちへの共感」が失われてしまうのであろうか。この問題に焦点を当てながら、道徳教育の課題をできる限り包括的に捉えてみたい。また、道徳教育の方法としての「対話」と「教育的タクト」について解説する。 とかく問題の多い道徳教育に対する各自の見解の確立を目指す。</p> | 【講義計画】 § 1. 子どもの問題行動を考える ①少年犯罪を考える アリス・ミラーの反教育学を手掛かりに ②「いじめ」事件とその克服にむけて § 2. 学校教育と子どもの人権 ①子どもの権利保障とその限界 ②教師の懲戒権と教育的に望ましい罰のあり方 § 3. 人間存在と道徳 ①慣習的道徳から反省的道徳へ ②カントの道徳律 ③コールバーグの道徳性発達理論とその応用（ジレンマ資料に基づく道徳授業） § 4 道徳教育の方法としての「対話」と「教育的タクト」 | | | |
| 【成績評価の方法】 <p>筆記試験と平常点によって評価する。</p> | 【参考文献】 <p>そのつど講義の中で指示する。</p> | | | |
| 【教科書】 <p>徳永・堤・宮嶋著『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版、1997年）</p> | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ |
|---|--|------|------|-----------|
| 特別活動論（旧教科外教育の研究Ⅰ） | 01 | 後 期 | 2 単位 | 林 陸雄 |
| | 02 | 後 期 | 2 単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 <p>中学校・高等学校の正規の教育活動には、各教科の授業以外に「特別活動」がある。その内容には、学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事が含まれている。 その教育目標の意図するところは、現代社会における閉ざされがちな子どもたちの社会生活体験を開き、社会関係能力の向上・改善を図ることにある。 それを実現するには、まず教師自身がこの教育目標で求められている諸能力を獲得する必要がある。その上に、現実の子ども達を指導するための理論と実践力を合わせ持たねばならない。 従って、この授業では、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践するための基礎・基本について、体験的学習をすすめることになる。 限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り、遅刻早退をしないこと。</p> | 【講義計画】 1. 特別活動の目標と内容、年間計画 2. 学級活動 3. 学級活動 4. 生徒会活動 5. 生徒会活動 6. クラブ活動 7. クラブ活動 8. 学校行事 9. 学校行事 10. 学校行事 11. 学校行事 12. まとめ | | | |
| 【成績評価の方法】 <p>出席回数、授業内での小レポート、期末考査の結果を総合的に判定して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価をしない。</p> | 【参考文献】 <p>授業の中で、適宜紹介する。</p> | | | |
| 【教科書】 <p>プリントを配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|------|---------|
| 生徒指導法 (旧教科外教育の研究Ⅱ) | 01 | 前 期 | 2 単位 | 小 島 孝 敏 |
| [講義概要・学習目標] 生徒指導は、「生徒理解に始まり生徒理解に終わる」と言われる。激変する社会で、価値観の多様な時代に揺れ動く子ども達の内面に迫る「密着指導はどうか」。歴史的な背景に触れながら、適応する心の教育を推進するために自己理解・自己指導・自己実現を図る何らかの手だての一助としたい。中学校と小学校の両校で勤務した生徒指導の現場体験や、7年間の教育行政職での経験を少しでも活かせれば幸いである。21世紀を担う子ども達のために、共に考え共に行動し「夢」を与えられるような指導者としての態度を身につける学習の場ともなればありがたい。全出席と遅刻や早退のないことが望ましい。 | | [講義計画] 1. 授業びらき：授業計画と学習方法 2. 問題行動の現状と課題 ① (小・中学校における生徒指導) ② (歴史的な背景等) 3. 人権と人間関係 ① (危険な性非行) ② (人権Q&A) 4. 生徒指導の実際 ① (生徒理解・集団指導と個別指導) ② (いじめ・不登校の対処の仕方) ③ (和の図り方と活かし方・叱り方と褒め方) ④ (情報化と社会資源の活用・国際交流活動とボランティア活動) 5. 親げ指導と家庭教育・・・(子育ての条件と生涯学習) 6. ふれあい学入門・・・(カウンセリングマインド) 7. プロの教師になるために・・・(生徒指導から何を学ぶか) 8. まとめ | | |
| [成績評価の方法] 出席回数や授業内での小レポートや、期末考査の結果等を総合的に評価したい。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。 | | [参考文献] 「生徒指導のために」～ 堺市教育委員会編 「生徒指導の手引き」～ 文部省編 「ふれあい学入門」～ 六浦基著・ヒューマンセンター 「教育はこれからがおもしろい」～ 野口克海著・日本教育新聞社 「私の子ども覚宣言」～ 同 明治図書 「しっかりしてねお母さん」～ 飯島繁著・山口印刷 「ぬるま湯教育はごめんだ」～ 同 家政教育社 「人権と人間関係論」～ 桑田敏一著・明石書店 その他 授業の中で適宜紹介します。 | | |
| [教科書] 特になし。 プリント類は自分で用意をします。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|---------|
| 生徒指導法 (旧教科外教育の研究Ⅱ) | 02 | 前 期 | 2 単位 | 辻 川 信 孝 |
| [講義概要・学習目標] 生徒指導の機能と実践について学習する。特に、生徒指導上の現状と諸課題について、学校現場における数々の取り組みを通して学習する。 | | [講義計画] 1. 授業開き、学習方法、生徒指導の意味 2. 生徒指導の機能とねらい 3. 生徒指導の機能を生かした教育活動 ①生徒理解 4. " ②教育相談 5. " ③教科指導 6. " ④進路指導 7. " ⑤集団づくり 8. " ⑥校種間・地域連携 9. " ⑦校内体制づくり 10. 当面する生徒指導上の諸課題 ①いじめ問題 11. " ②不登校問題 12. " ③学級崩壊 13. まとめ | | |
| [成績評価の方法] 出席回数、授業内での小レポート、期末考査の結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。 | | [参考文献] 授業の中で適宜紹介する。 | | |
| [教科書] ③ 自分で用意する(プリント) | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー プ |
|---|---|----------------|-------------------|----------------------|
| 教育実習 | 01 02 03 | 前期 前期 前期 | 3単位 3単位 3単位 | 島田勝正 竹中暉雄 林 陸雄 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>教育実習とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習(2週間)とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。</p> <p>はじめは、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な最低の理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。そこでは、実習上の要件を満たさない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしがたい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。</p> <p>なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p> | <p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 事前実習：模擬授業 3. 事前実習：模擬授業 4. 事前実習：模擬授業 5. 事前実習：模擬授業 6. 事前実習：模擬授業 7. 事前実習：模擬授業 8. 実地実習 9. 実地実習 10. 事後実習：模擬授業 11. 事後実習：模擬授業 12. 事後実習：模擬授業 13. 事後実習：本学卒業の教員による講話 14. まとめ | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。</p> | <p>〔参考文献〕</p> <p>池田、酒井、野里、宇井（編著）『教育実習総説』（学文社） 白井、寺崎、黒澤、別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）</p> | | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>桃山学院大学教職課程委員会(編) 『教職をめざすには---教職課程履修ガイド---』</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|---------|
| 同和教育論 | 01 | 通 期 | 4 単位 | 黒 田 伊 彦 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「人権教育のための国連10年」も半ばを過ぎ、国内行動計画の具体化による人権文化の確立が求められている。また、人権擁護推進審議会の教育・啓発に関する意見書が出されるに当たり、人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。</p> <p>前期は差別とは何か、部落差別の現実と闘いの歩みから、部落解放の方策を明らかにする。</p> <p>後期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方及び部落悲慘史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。</p> <p>教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。</p> <p>教科書、補充プリント、映像資料を用いる。</p> <p>前期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。</p> <p>後期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。</p> <p>人権教育Ⅳ（部落問題）の履修が望ましい。</p> | <p>〔講義計画〕</p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「人権教育のための国連10年」と同和教育 (2) 人権とは何か、差別とは何か (3) 部落差別の現実と本質―部落差別が今も続いている理由 (4) 部落の起源と部落差別との闘いの歴史 (5) 部落の起源と身分制度、洪染一揆、全国水平社の教科書記述の検討 (6) 部落解放の方策と同和（解放）教育の課題 <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 戦前の融和教育と戦後の同和教育の歩み (2) 同和教育、解放教育とは何か (3) 「いじめ」を克服する同和教育 (4) 部落問題学習の基本視点と反差別集団の形成 (5) 部落悲慘史論を克服する教材研究 (6) 教員採用試験の同和・人権関係問題の演習 | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>前期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。 後期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。 出席を重んじる。</p> | <p>〔参考文献〕</p> <p>黒田 伊彦（著） 『部落史紀行』（柘植書房新社） 中尾 健次・森 実（編） 『同和教育の理論』（東信堂） 部落解放研究所（編） 『戦後同和教育の歴史』（解放出版社） 山田 隆夫（著）黒田 伊彦（解説）『自己教育論』（新泉社）</p> | | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>黒田 伊彦（著）『部落問題学習16講』（柘植書房新社）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 同和教育論 | 02 | 通 期 | 4 単位 | 寺 木 伸 明 |
| [講義概要・学習目標] 本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そして、そもそも同和教育は必要なのか、について議論をしたい。 次に、現在、被差別部落出身の子供たちをとりまく、なまなましい差別の実情について、具体例をあげながら説明する。そうした現実をふまえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのか、を検討する。その際、実際、中学校と高校の先生にゲスト講師できていただき、教育現場での取り組みを報告していただく予定である。 つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果をふまえて講義する。 同和教育の現在の問題点や課題などについても受講生諸君と議論をしながら確かめていきたい。視聴覚教材も活用したいと考えている。 できるだけ人権問題Ⅵ(部落問題)を履修しておくことが望ましい。 | [講義計画] 1. 同和教育とは何か 2. 同和教育は必要か 3. 教育における部落差別の実情 4. 中学校における同和教育の実践例(ゲスト講師予定) 5. 同和教育の歴史 6. 部落問題学習の進め方 7. 高校における同和教育の実践例(ゲスト講師予定) 8. 同和教育の問題点と課題 | | | |
| [成績評価の方法] 前期も後期も試験を行い、それらの結果を基本に、時々課す小レポートの内容を加味して評価する。 | [参考文献] | | | |
| [教科書] 解放出版社編『部落問題 資料と解説』(解放出版社) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 視 聴 覚 教 育 | | 後 期 | 2 単位 | 宮 本 洋 子 |
| [講義概要・学習目標] 人間の進化は単に遺伝子によるだけではなく、一人一人の経験が記憶され、次世代に伝達していくという<伝達可能な文化>が成立したことによって、その文化の伝達が進化という大きな変化の原動力となっている。つまり、人間にとって<伝達する (communicate)>ということは、人間存在にもかかわる重要な意味をもっている。 文化の伝達に際し、とくに文化の伝達に重要な役割を担う教育を行うに際して、視覚的方法を取り入れることは有効な手段である。社会における情報量が増大し、かつ伝達速度が高速化してきている今日では、新しい多様な視覚メディアの利用が期待される場所である。 本稿では、コミュニケーションにおける視覚的方法および新しい視覚メディアの活用の意義を、講義と実習を通じて履修生に検討してもらいたいと考えている。 講義はまず、視覚的伝達の歴史を振り返るとともに、様々な視覚メディアの利用例を紹介する。また、コンピューター実習を行い、電子メールやインターネットを体験的に利用する。さらに、講義で紹介した視覚メディアおよびコンピューター等の利用実践計画を作成し、最後にその計画の実演を行いたい。 | [講義計画] I. 視覚教育の意義と歴史 1. 視覚教育の意義 2. 視覚教育の歴史 II. 視覚教育メディアの種類と利用 1. 視覚教育メディアの種類 2. 視覚教育メディアの利用(例示) III. コンピューターの利用と実習 1. コンピューター実習 2. 電子メールとインターネットの利用 IV. 視覚教育メディアの利用実践計画の作成 1. 伝達内容の構成 2. 視覚教育メディアの選択 V. 実践計画の実演 注) この計画内容については、講義・実習の進捗状況によって変更することがある。 | | | |
| [成績評価の方法] 実習および実演を重視する。学期末に試験は行わないが、実演のための実践計画書の提出を求める。これらに出席等を加味し、総合的に評価を行う。 | [参考文献] (財)日本視覚教材センター編『視覚教育メディアの活用』 (財)日本視覚教材センター、平成4年3月) 後藤和彦他編『メディア教育を拓く』(ぎょうせい、1986年12月) 榎田磐、津一橋美歩著『新版 視覚教育』(学芸図書、1998年4月) 野田一郎他著『視覚教育』(東京書籍、昭和63年3月) 塩見邦男編著『視覚教育の理論と方法』(ナカニシヤ、1998年5月増補) | | | |
| [教科書] 教科書は使用しない。必要に応じて資料や補助教材を、OHC、VTR、印刷物などで提供する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|---|-----|-------|
| 生涯学習概論 | 01 | 前期 | 2単位 | 伊藤正純 |
| | 02 | 後期 | 2単位 | |
| [講義概要・学習目標] | | [講義計画] | | |
| <p>1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習の必要性が叫ばれてきたのは、先進国では、急速な技術革新および長寿社会によって成人の学習機会の保障が不可欠になってきたからであり、後進国では、子どもの学習機会を保障するためにも大人の学習（→学習による貧困からの脱出）が不可欠だったからである。本講義では、このような国際的な動向に加えて、生涯学習の先進国であるスウェーデンでの成人教育の諸制度（特に教育休暇制度と成人教育奨学金制度および学習サークル）を紹介し、それとの対比で文部省が推進しようとしている日本の「生涯学習社会」建設の意義と限界を考えてみたい。なお、日本でも自治体レベルで、旧来の社会教育（図書館・博物館・公民館での活動）を包摂した様々な生涯学習推進事業が展開されるようになってきているので、その例を2、3紹介するつもりである。</p> | | <p>1. 生涯学習とは何か ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論</p> <p>2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験 コミュニケーション成人教育、国民高等学校 高い成人学生の割合、学生ローン制度 教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル</p> <p>3. 日本の生涯学習の特異性 生涯学習振興法と「生涯学習」の実情 高等教育における生涯学習の推進状況</p> <p>4. 地方自治体の取り組み</p> | | |
| [成績評価の方法] | | [参考文献] | | |
| <p>司書および学芸員資格取得科目であるので、出席重視・授業中の感想文重視で評価する。定期試験を実施するかどうかは未定。なお、20分を超えた遅刻は認めない（入室禁止措置をとる）。</p> | | <p>1. 黒沢惟昭編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社</p> <p>2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部</p> <p>3. 朝倉征夫監修『私たちの生涯学習研究』学芸図書株式会社</p> <p>4. 桃山学院大学教育研究所『和泉市民の生涯学習に関する意識調査報告書』</p> | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>使用しない。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|---|-----|-------|
| 図書館通論 | | 前期 | 2単位 | 志保田 務 |
| [講義概要・学習目標] | | [講義計画] | | |
| <p>図書館、図書館情報学のおおそについて平易に概説する。まずは図書館は何をすることかを把握し、図書館の果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。ここでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。まためとして「図書館の自由」と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャルブラリについて検討する。</p> <p>図書館を構成する要素のうち最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。</p> | | <p>1. 図書館とはなにか</p> <p>2. 図書館の果たす役割</p> <p>3. 情報の伝達と図書館</p> <p>4. 社会、生涯学習と図書館</p> <p>5. 図書館の構成要素</p> <p>6. 図書館の種類（館種）</p> <p>7. 公共図書館：理念</p> <p>8. 公共図書館の歴史と現代</p> <p>9. 公共図書館の利用者</p> <p>10. 図書館の自由</p> <p>11. 図書館経営</p> <p>12. まとめ</p> | | |
| [成績評価の方法] | | [参考文献] | | |
| <p>テスト80% レポート 20%</p> | | <p>藤野幸雄〔ほか〕編『図書館情報学入門』（有斐閣 1998）</p> | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>志保田務編著『図書館概論』（樹村房 1998）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 図書館経営論 | | 後 期 | 2 単位 | 西田文男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>生涯学習社会における図書館という観点を重視して、図書館経営に関わる組織、管理、運営、各種計画について解説する。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館経営の在り方 2. 自治体行政と図書館 3. 図書館の組織と管理・運営 4. 図書館長・館員の責務および研修 5. 図書館サービス計画の意義と方法 6. 図書館の整備計画と施設、設備、備品 7. 図書館業務・サービスの評価 8. 情報ネットワークの形成の意義と方法 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>竹内紀吉「図書館経営論」 教育史料出版会</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 図書館サービス論 | | 前 期 | 2 単位 | 西田文男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに、各種サービスの特質を明らかにする。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館サービスの概念と意義 2. 図書館サービスの計画と評価 3. 図書館活動の発展 4. 図書館サービスの現状と課題 5. 図書館づくりの施策と運動 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>塩見 昇「図書館サービス論」 教育史料出版会</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 情報サービス概説 | | 前 期 | 2 単位 | 西田文男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報サービス一般の広がり、図書館が行う情報サービスの位置づけ 2. 図書館における情報サービスの意義と種類 3. 情報および情報探索行動についての基本的理解 4. レファレンスプロセス 5. 情報検索サービスの方法・プロセス・評価 6. 重要な参考図書、データベースの解説と評か 7. 参考図書およびその他の情報源の組織 8. 各種情報源の特徴と利用法 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績によって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>志保田 務 他 「情報サービス（概説と演習）」 学芸図書</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 情報サービス演習 | | 後 期 | 2 単位 | 西田文男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して、実践的な能力の養成を図る。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成してもらい、発表してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書に関する質問 2. 逐次刊行物に関する質問 3. ことばに関する質問 4. ことばに関する質問 5. 歴史に関する質問 6. 地理に関する質問 7. 人物・団体に関する質問 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績と発表の内容等によって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>志保田 務 他 「情報サービス（概説と演習）」 学芸図書</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー プ | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------|-----|-----------|----|----------------|------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------|---------------------|---------------------|------------------------|------------|----------------|--------|
| 情報検索演習 | 01 | 前期 | 1単位 | 志保田 務 | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【演習概要・学習目標】</p> <p>図書館が、オンライン、オンデスクのデータベースに利用者のために接続するサービスは、今日必須のこととなっている。このサービスの専門家は、図書館の外の世界ではサーチャー（インフォメーション・サーチャー）と呼ばれる。ここでは、1級、2級と高位の資格であるサーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験を目標において学修する。</p> <p>各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。</p> <p>この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。</p> <p>1 E-MAIL Addressを取得しておくこと（学内LANのそれでよい）</p> <p>2 パソコンキーボードの操作、入力ができること。</p> | <p>【演習計画】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 ガイダンス 情報利用社会</td></tr> <tr><td>2 情報検索概論(情報検索と情報処理の違い)</td></tr> <tr><td>3 情報検索の基本1(主題分析、分類、キーワード)</td></tr> <tr><td>4 情報検索の基本2(検索式、検索コマンド)</td></tr> <tr><td>5 情報検索の基本3(一次情報と二次情報)</td></tr> <tr><td>6 情報検索の実際1(図書、雑誌)</td></tr> <tr><td>7 情報検索の実際2(新聞記事、雑誌記事)</td></tr> <tr><td>8 情報検索の実際3(企業、人物)日本</td></tr> <tr><td>9 情報検索の実際4(企業、人物)外国</td></tr> <tr><td>10 情報検索の実際5(生活、趣味、その他)</td></tr> <tr><td>11 情報検索と英語</td></tr> <tr><td>12 情報検索の企業での役割</td></tr> <tr><td>期末レポート</td></tr> </tbody> </table> | | | | 内容 | 1 ガイダンス 情報利用社会 | 2 情報検索概論(情報検索と情報処理の違い) | 3 情報検索の基本1(主題分析、分類、キーワード) | 4 情報検索の基本2(検索式、検索コマンド) | 5 情報検索の基本3(一次情報と二次情報) | 6 情報検索の実際1(図書、雑誌) | 7 情報検索の実際2(新聞記事、雑誌記事) | 8 情報検索の実際3(企業、人物)日本 | 9 情報検索の実際4(企業、人物)外国 | 10 情報検索の実際5(生活、趣味、その他) | 11 情報検索と英語 | 12 情報検索の企業での役割 | 期末レポート |
| 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 ガイダンス 情報利用社会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 情報検索概論(情報検索と情報処理の違い) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 情報検索の基本1(主題分析、分類、キーワード) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 情報検索の基本2(検索式、検索コマンド) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 情報検索の基本3(一次情報と二次情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 情報検索の実際1(図書、雑誌) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 情報検索の実際2(新聞記事、雑誌記事) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 情報検索の実際3(企業、人物)日本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 情報検索の実際4(企業、人物)外国 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 情報検索の実際5(生活、趣味、その他) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 情報検索と英語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 情報検索の企業での役割 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期末レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【成績評価の方法】</p> <p>テスト 70% 課題 20% 出席 10%</p> | <p>【参考文献】</p> <p>志保田務編著『情報機器論・特論:メディアの活用』（第一法規） 『情報管理入門』第5版（情報科学技術協会） 『最新オンライン情報源活用法』（日外アソシエーツ）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【教科書】</p> <p>『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 情報検索演習 | 02 | 後期 | 1単位 | 吉田 憲一 |
| <p>【講義概要・学習目標】</p> <p>近年のコンピュータ関連技術や通信技術の急速な進展を背景として、21世紀の図書館は、従来の「印刷資料の館」から多メディアにわたる「情報（提供）の館」へと変わろうとしている。12cmのCD-ROM 1枚には、1,000冊を超える図書あるいは新聞数年分が優に収まり、そこから求める情報を自由に取り出すことができる時代に相応した図書館の役割が求められているからである。今までは図書館に行かないと得られなかった情報が、研究室で、或いは家庭で、パソコン端末から入手できるような時代となっている。このように情報・通信環境が大きく変容するなかで、電子化された情報を適切に組織化し、迅速に引き出す技術（特にデータベースについて）を習得できるように授業を進める。演習科目の性格上、できるだけ休まずに出席することが求められる。</p> | <p>【講義計画】</p> <p>コンピュータ室での演習を4～5回程度行い、データベース作成および情報検索の演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコン入門：ビデオ映写 2. 情報管理と図書館：情報伝達メディアとその変遷 3. 情報の組織化 4. 情報の蓄積と検索：データベースとオンライン情報検索 5. 情報検索の理論 6. 情報検索の演習 7. 電子化図書館とその課題：コンピュータの光と影 | | | |
| <p>【成績評価の方法】</p> <p>パソコン教室での演習の成果および最終講義時に行うテストにより評価する。</p> | <p>【参考文献】</p> <p>牛島悦子ほか著 『情報管理』 改訂 樹村房</p> | | | |
| <p>【教科書】</p> <p>戸田慎一著 『情報検索演習』（日本図書館協会） （JLA図書館情報学テキストシリーズ）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 情報検索演習 | 03 | 前期 | 1単位 | 吉田 暁史 |
| 【演習概要・学習目標】 本来この科目では、各種オンラインデータベースやCD-ROMを対象とした情報検索の演習を行うが、旧カリキュラムの「情報管理」がなくなったこともあり、旧科目で扱っていた索引・抄録技術を中心に、基礎事項の一部をまず解説し、その後演習を行う。 | 【演習計画】 1. 情報伝達メディアの変容 2. 抄録と索引 3. データベースとは 4. 情報検索の基礎事項 (1) 情報検索とは (2) 情報検索の歴史 (3) 遡及検索とカレントアウェアネス 5. 情報検索の基本的技法 (1) 論理演算子 (2) 近接演算子 (3) トランケーション 6. 情報検索の実際 (1) 学術情報センター総合目録の検索 (2) 欧米の図書館目録の検索 (3) 新聞雑誌記事の検索 (4) インターネット情報資源の検索 | | | |
| 【成績評価の方法】 実習レポート（電子メール）、筆記試験、出席状況を判断して行う。 | 【参考文献】 | | | |
| 【教科書】 戸田慎一編 『情報検索演習』 日本図書館協会 1,260円 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 図書館資料論 | | 後 期 | 2単位 | 志保田 務 |
| 【講義概要・学習目標】 図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。 | 【講義計画】 1. 図書館資料論 2. 図書館資料の種類 3. 資料の生産と流通 4. 資料の選択 5. 資料選択論 6. 図書館の自由 7. 電子資料、電子情報 8. ネットワーク 9. インターネット 10. 著作権 11. 公貸権 12. まとめ | | | |
| 【成績評価の方法】 テスト80% 課題 20% | 【参考文献】 志保田務編著『情報機器論・特論:ITの活用Ⅱ』（第一法規） | | | |
| 【教科書】 【教科書】志保田務編著『図書館概論』（樹村房） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 専門資料論 | | 前期 | 2単位 | 松永 俊男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> 人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。 | <p>[講義計画]</p> 1. 学術文献とはなにか 2. 分野の特徴と学術文献 3. 学術雑誌の特徴 4. 学術文献の歴史 5. 雑誌 <u>nature</u> について 6. 学術における不正 7. 百科辞典について-1- 8. 百科辞典について-2- 9. 百科辞典について-3- 10. 人文科学・社会科学の二次資料 11. 科学技術の二次資料 12. テスト | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> 平常点と最終テストを総合して評価する。 | <p>[参考文献]</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 資料目録法 | | 前期 | 2単位 | 北 克 一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> 資料組織法の中心的柱である目録法の意義・目的と方法、図書館資料の目録法について学習する。目録対象の理解を持ち、目録の基本構造や書誌コントロールの意義を把握し、書誌ユーティリティの機能を理解することを主眼とする。 | <p>[講義計画]</p> コンピュータ目録を中心に取り上げ、併せて最近の全文データベースの組織法やネットワーク情報源のメタ目録についても言及する。 書誌コントロールの歴史、現状、典拠ファイルの役割などについて図書や逐次刊行物を例として取り上げて講義を進める。 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> ミニ・テスト及び最終レポート | <p>[参考文献]</p> 丸山昭二郎著、情報と図書館、丸善 永田治樹著、学術情報と図書館、丸善 | | | |
| <p>[教科書]</p> 志保田務、高鷲忠義著、資料組織法第3版、第一法規 プリントは適時に配布する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 資料分類法 | | 前期 | 2 単位 | 吉田 憲一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「Books are for use」（インドの分類学者ランガナタンの図書館学の第一法則）との余りに当然と思われる命題も真となつてまだわずか百数十年を経過するにすぎない。膨大な図書館資料を迅速かつ有効に利用できるためには、図書館資料の排架方法を知り、主題から資料にアクセス（検索）するための理論を会得することが第一に必要である。この主題検索の理論は、大別すると分類法と件名法に2分される。</p> <p>この科目では、両者に共通する主題検索の基本的な考え方を学んでもらうことを目的とする。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>今日の多くの大学図書館で利用に供されているOPAC（オンライン閲覧目録）の時代にマッチした理論として考えていきたい。</p> <p>ア)分類法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料分類の意義 2. 基礎的理論 3. 世界の代表的な分類表 4. 日本十進分類法：助記法およびその構造 5. 相関索引等 <p>イ)件名法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分類法と件名法の相違 2. 件名標目表とシソーラス 3. 基本件名標目表 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席および最終講義時のテスト結果で評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>丸山昭二郎編 『主題情報へのアプローチ』（雄山閣）</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>木原通夫ほか著 『資料組織法 最新版』（第一法規出版）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 資料目録法演習 | | 後 期 | 1 単位 | 北 克 一 |
| <p>[演習概要・学習目標]</p> <p>資料目録法で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。</p> | <p>[演習計画]</p> <p>カード目録作成を通じて目録基礎を学習すると共に、書誌ユーティリティを使用してのコンピュータ目録作成演習を行う。コンピュータ目録演習が中心となるので、キーボード操作、マウス操作、かな漢字変換などについては事前に自己学習しておくことが望ましい。</p> <p>作成した機械可読目録を加工して、各人のOPACを構築し検索演習を行う。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>演習課題提出と最終レポート</p> | <p>[参考文献]</p> <p>教科書のp.45に参考文献一覧を掲載</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>北 克一著、資料組織演習－書誌ユーティリティ、コンピュータ目録－、MBA プリントは適時に配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 資料分類法演習 | | 後期 | 1 単位 | 吉田 憲一 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>後期の演習(分類法)では、資料の内容(主題)にかかわる検索のための主題組織化の技術、つまり主題索引法(分類法および件名法)について、今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」(NDC)および「基本件名標目表」(BSH)を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。</p> <p>また、コンピュータ目録の時代に即した主題検索法についても、コンピュータ室を使用して演習を行う。</p> | <p>1. 主題分析と主題把握</p> <p>①自然語による主題把握</p> <p>②統一名辞による主題把握</p> <p>2. 分類法</p> <p>①分類作業</p> <p>②一般分類規程</p> <p>③特殊分類規程</p> <p>④各類演習</p> <p>⑤別置法・図書記号法</p> <p>3. 件名法</p> <p>①件名作業</p> <p>②件名規程</p> <p>③件名演習</p> <p>4. コンピュータ演習</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| 授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。 | | | | |
| [教科書] | | | | |
| 吉田憲一編著 『資料組織演習』 (日本図書館協会) (JLA図書館情報学テキストシリーズ10) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|--------|
| 児童サービス論 | | 前期 | 2 単位 | 清水 昭 治 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>公共図書館とは、普通、いわゆる一般用(大人用)と子供用との部室又はコーナーを併せて本を配架している。従って、大人、中学生などを対象とし、絵本から、幼児、幼稚園児、小学生、中学生までの幅広い子供用の本を並べている。そして、公共図書館の全貸出冊数の相当部分をここの子供の本が占めている。この講義では、主に、公共図書館の児童サービスを中心として、学校図書館、家庭や地域の文庫活動なども対象とし、大人と児童との中間地帯のいわゆる「ギャップ」と呼ばれる中学生や高校生などの図書館とのかわりをお話します。多彩な出版士から子供向けの本を実際に授業の中で楽しみながら講義を進めます。生涯教育が叫ばれる中、図書館の役割は、今後、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化することは、大変な意味を持ちます。その習慣化の第一歩が児童サービスです。その第一歩の大切さを学びます。</p> | <p>講義と共に、具体的に、実際に、子供の本を紹介しながら、又、「読みさせ」などを通じて、子供の本の楽しさを伝えたい。</p> <p>又、スライド等を利用して、具体的に子供の図書館の姿を学びたい。</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| レポート、又は、学年末試験に加之、出席状況や平常成績とで、総合評価したい。 | | | | |
| [教科書] | | | | |
| | <p>参考文献は、講義の中でお知らせしますが、まずは、文献よりも、実際の児童図書館を体験しておきたい。はじめは、少し躊躇しますが、一度、体験すれば大人用の図書館と同じように利用ができることと思います。</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 図書及び図書館の歴史 | | 後 期 | 2 単位 | 志保田 務 |
| [講義概要・学習目標] 図書及び図書館の上を流れた歴史を確かめる。歴史を見るには観点の設定が欠かせない。それぞれの時代の図書、図書館が誰の者であったか、何のために造られたのか。こうした点に留意する。 とくに近代図書館の成立を、図書館の大衆化及び生涯学習施設化の実現とらえ掘り下げる。 | [講義計画] 1. 文献史、情報史、学習史、出版史、図書館史 12. まとめ 2. 古い時代の図書館1 アジア、アフリカ 3. 同 エジプト 4. 同 ギリシア、アレクサンドリア 5. 修道院図書館 6. 大学図書館 7. 人文主義と図書館 8. 宗教改革と図書館 9. 産業化社会と図書館 10. 市民社会と図書館 11. 日本の図書館 | | | |
| [成績評価の方法] テスト80% レポート 20% | [参考文献] | | | |
| [教科書] 『図書館：その本質、歴史、思潮』改訂版 (丸善) | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ |
|---|--|------|------|-----------|
| 資料特論 | | 後期 | 2 単位 | 松永 俊男 |
| [講義概要・学習目標] 行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。 | [講義計画] 1. はじめに 2. 行政資料について(1) 3. 行政資料について(2) 4. 情報公開制度について(1) 5. 情報公開制度について(2) 6. CD-ROMとインターネットの実習 7. 視聴覚資料について(1) 8. 視聴覚資料について(2) 9. 郷土資料について(1) 10. 郷土資料について(2) 11. まとめ | | | |
| [成績評価の方法] 講師それぞれの評価(テストまたはレポート)を総合して評価する。 | [参考文献] | | | |
| [教科書] | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|---|------|-------|
| 情報機器論 | | 後期 | 2 単位 | 藤間 真 |
| <p>[講義概要・学習目標] 近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。</p> <p>本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。</p> <p>具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。</p> <p>連絡は掲示を通じて行うので、常に掲示に留意すること。</p> | | <p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報とは ・情報を機械で扱うとは ・図書館で使われる情報機器 ・情報処理システムの基礎知識 ・パソコンの基礎知識 ・視覚機器とプレゼンテーション | | |
| <p>[成績評価の方法] 学年末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。</p> | | <p>[参考文献] 進行状況に応じて指示する。</p> | | |
| <p>[教科書]</p> <p>志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規</p> | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|----------------|------------------------------------|-------------------------|----------------|-----------------------------|----------------------|--------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------------------|---------------|----------------------|
| 図書館特論 | | 後 期 | 2 単位 | 志保田 務 | | | | | | | | | | | |
| <p>[講義概要・学習目標] 現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスタのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてここでは学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。</p> <p>各分野の専門家によるインテグレーション授業とし、大半はA館のコンピュータ演習室を使用する。</p> <p>この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 E-MAIL Addressを取得しておくこと(学内LANのそれでよい) 2 パソコンキーボードの操作、入力ができること。 | | <p>[講義計画]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1) ガイダンス、情報化社会</td></tr> <tr><td>2) 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード)</td></tr> <tr><td>3) データベース検索入門(検索式、コマンド)</td></tr> <tr><td>4) 情報機器とネットワーク</td></tr> <tr><td>5) データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク)</td></tr> <tr><td>6) データベース検索演習2(科学技術)</td></tr> <tr><td>7) データベース検索演習3(特許)</td></tr> <tr><td>8) データベース検索演習4(ライフサイエンス)</td></tr> <tr><td>9) データベース検索実習1(DIALOG JOIS)</td></tr> <tr><td>10) データベース検索実習2(DIALOG JOIS)</td></tr> <tr><td>11) データベースと英語</td></tr> <tr><td>12) データベース検索結果の加工と評価</td></tr> </tbody> </table> | 内容 | 1) ガイダンス、情報化社会 | 2) 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード) | 3) データベース検索入門(検索式、コマンド) | 4) 情報機器とネットワーク | 5) データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク) | 6) データベース検索演習2(科学技術) | 7) データベース検索演習3(特許) | 8) データベース検索演習4(ライフサイエンス) | 9) データベース検索実習1(DIALOG JOIS) | 10) データベース検索実習2(DIALOG JOIS) | 11) データベースと英語 | 12) データベース検索結果の加工と評価 |
| 内容 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) ガイダンス、情報化社会 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 情報とデータベース(データベースの構造、主題分析とキーワード) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) データベース検索入門(検索式、コマンド) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 情報機器とネットワーク | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5) データベース検索演習1(ビジネスとネットワーク) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6) データベース検索演習2(科学技術) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7) データベース検索演習3(特許) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8) データベース検索演習4(ライフサイエンス) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9) データベース検索実習1(DIALOG JOIS) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10) データベース検索実習2(DIALOG JOIS) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11) データベースと英語 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12) データベース検索結果の加工と評価 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト 70% 課題 20% 出席 10%</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』(第一法規) 『情報検索の基礎』第2版(情報科学技術協会) 『最新オンライン情報源活用法』(日外アソシエーツ)</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>『情報管理入門』第5版(情報科学技術協会)</p> | | | | | | | | | | | | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅰ (学校経営と学校図書館) | | 前期 | 2単位 | 吉田 憲一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>97年6月、長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であるが、これをこれからの学校図書館の充実に向けてどのように生かしていくかが今後の課題である。</p> <p>この授業では、「学校の中の図書館」としての学校図書館がもつ特有の機能(指導的機能)と、図書館自体がもつ共通的な機能(奉仕機能)を留意しつつ、学校図書館の意義と役割を全般的に学んでもらう。</p> <p>そこでは、学校図書館の主要な構成要素である人、施設、資料について、その経営(運営・管理)的な要素が中心となる。</p> <p>前半部分では、主として学校図書館の意義や役割について、後半部分では、学校図書館●を掌理する司書教諭の役割および施設についてを、講義内容の柱として進めていく。</p> <p>また、ビデオを利用して、学校図書館のいきいきとした活動の実際も学んでもらうこととする。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館の理念と教育的意義 2. 学校図書館関連法規・基準 3. 学校図書館法解説 4. 学校図書館の歴史 5. 学校図書館の経営：人、施設、資料、予算など 6. 学校図書館の運営・管理 7. 司書教諭の役割 8. 学校図書館の施設 9. 学校図書館の活動とネットワーク | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果で評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>全国学校図書館協議会編刊 『司書教諭の任務と役割』 学校図書館活性化研究会編 『学校図書館の活用実践事例集』 第一法規</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>塩見昇著 『学校図書館論』 (教育史料出版会) (新編図書館学教育資料集成9)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅱ (学校図書館メディアの構成) | | 前期 | 2単位 | 志保田 務 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本科目は、学校図書館法のもと学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学習目標を有する。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校図書館メディアの種類と特性 2) 学校図書館メディアの選択と構成 3) 学校図書館メディアの組織化 <p>資料配列法： 書架分類法：日本十進分類法(NDC) 図書記号法 別置法 資料目録法 主題目録法 件名法：基本件名目録法(BSH) 書誌分類法 名称による検索：日本目録規則(NCR)1987年改訂版 目録の機械化 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校図書館司書教諭の資格の取得 2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得 3) 学校図書館の実務業務に役立つ知識の獲得 | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 メディアの構成：資料論 2 分類 3 書架分類 4 日本十進分類法 1 5 同上 2 6 分類法演習 1 7 同上 2 8 目録法 9 同上(タイトル目録) 10 同上(著者目録) 11 同上(件名目録) 12 機械化目録 13 多様な学習環境と学校図書館メディア | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> | <p>[参考文献]</p> <p>志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』(第一法規)</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>木原通夫、志保田務『分類・目録法入門：メディアの構成』新改訂版第2版 第一法規 1999</p> | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当チーフ |
|---|-----|---|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅲ（学習指導と学校図書館） | | 前期 | 2単位 | 林 陸 雄 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>1998年6月、教育課程審議会が公表した「審議のまとめ」で、「これまでの知識を一時的に教え込むことになりがちであった教育から、自ら学び考える教育へと、その基調の転換を図る」ことがうたわれた。教師中心、教科書中心の知識伝達の授業方法から、学ぶ主体である生徒の思考力、判断力を養い、学び方や問題解決能力を育成しようとする教育方法への転換である。そして教科「情報」と、あえて教科書を作らない総合的な学習の時間が今後取り入れられようとしている。これら一連の教育改革を実現成功させる鍵を握るのが学校図書館である。なぜなら、様々な学習メディアを活用して生徒自らが情報を収集し、選択し、思考し、まとめるという主体的な学習を支えられる場は、図書館において他にないからである。</p> <p>教科の学習と関連させ、かつ生徒の発達段階に応じた資料収集とその利用の方法を紹介したい。また、印刷媒体が必ずしも伝達・記録の全てではなくなくなった今日、学校図書館のマルチメディア化の方向を探り、それらを包括した学び方の指導にも言及したい。</p> <p>なお、授業の展開に当たっては、現場で実践されている経験豊かな先生を、各下位テーマに合わせてゲスト講師としてお招きする</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育改革で求められている学校図書館の役割 2. 教育課程と学校図書館 3. 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択Ⅰ 4. 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択Ⅱ 5. 児童・生徒の学校図書館メディア活用能力の育成 6. 学習指導における学校図書館の利用Ⅰ 7. 学習指導における学校図書館の利用Ⅱ 8. 学習過程における学校図書館メディア活用の実例Ⅰ 9. 学習過程における学校図書館メディア活用の実例Ⅱ 10. アメリカにおけるメディア・スペシャリスト 11. 学校図書館レファレンス・サービス 12. 教師への支援と働きかけ 13. まとめ | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>授業中にプリントを配布する。</p> | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当チーフ |
|---|-----|--|-----|-------|
| 学校図書館論Ⅳ（読書と豊かな人生） | | 後期 | 2単位 | 林 陸 雄 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>1998年の読書調査によると、5月の一ヶ月に一冊も本を読まなかった高校生は67%、中学生は48%にのぼる。青少年の読書ばなれを憂い、1993年に全国図書館協議会など15団体で結成されたのが「子どもと本の出会いの会」である。その会長となった作家・井上ひさし氏は「子どもや若者が本を読まない国に未来はない」と、「子どもたちの豊かな未来を願うすべての人々が、それぞれの立場と創意を生かし、子どもたちが楽しい本、すぐれた本と出会い、豊かな読書体験ができるよう・・・知恵と力を出し合う」ことの必要を訴えている。</p> <p>このような状況下、学校教育の場では、不読者対策を含めどのような読書指導が実践されているのか、その中で図書館はどう機能しているかを紹介したい。また青少年をとりまく社会と文化の変遷を思い、あらためて読書の意義と目的を問い直し、今後の読書指導の在り方を考えてみたい。</p> <p>なお、授業の展開に当たっては、現場で実践されている経験豊かな先生を、各下位テーマに合わせてゲスト講師としてお招きする。</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青少年の読書の実態 2. 青少年をとりまく文化 3. 読書の意義と目的 4. 発達段階に応じた読書の指導と計画Ⅰ 5. 発達段階に応じた読書の指導と計画Ⅱ 6. 児童・生徒向け図書の種類と活用 7. 読書の指導方法 8. 読書と心の教育 9. 読書指導の実例Ⅰ 10. 読書指導の実例Ⅱ 11. 読書指導の実例Ⅲ 12. 家庭、地域、公共図書館等との連携 13. まとめ | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席状況、授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>授業中にプリントを配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 社会学 | | 通 期 | 4 単位 | 清 水 夏 樹 |
| <p>[講義概要・学習目標] 社会学は近代社会科学の中で最も新しい部類に属する。その分、種々未熟な部分をもつ。けれど近年「社会学的」な見方が注目されているのも事実。このように視座と展望をめぐらさず、日常的なトピックスにも配慮しつつ現代社会が直面する課題を問うてみたい。 社会の問題領域に寄り添うための分析力と把握力を養うつもりで受講に臨んでほしい</p> | <p>[講義計画] 前期 基礎概念—社会的行為 期待と役割 相互行動 家族 社会的自我形成 集団と組織 共同体 文化と行動様式 学史的背景—フェルケム、ジムメル、ウェーバー、アメリカ社会学 中、後期—近代市民社会 中産階層 大衆社会 社会的分業 アノミー 宗教と社会との相互動態 社会構造とシステム 社会変動と日本近代化の特異性 経済社会の成長と成熟 渾沌集団、学史的背景—マートン、ゴウマン、ホードリヤル 最終段階 情報化社会とネットワーク ゲームの相互性と象徴性 社会的機能 消費社会の再定義の試み</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法] 随時、簡易レポートを課し、その成果を加味し、学年末テストと最終評価対象とする。</p> | <p>[参考文献] 「パンドックスの社会学」(君塚、宮本、森下著) 新曜社</p> | | | |
| <p>[教科書] 「社会学のあゆみ」(大村、宇月、中野ほか著)有斐閣</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 医学一般 | | 通 期 | 4 単位 | 郭 麗 月 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学 (内科、外科、整形外科、神経・精神科等) の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん、成人病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 | | | |
| <p>[成績評価の方法] レポート、定期試験の成績で評価する。</p> | <p>[参考文献] 適時紹介する。</p> | | | |
| <p>[教科書] 福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座 14 「医学一般」 (中央法規)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-------------|--|----------------------|-------------------|-------------------------|
| 介護概論 | 01 02 03 | 9月集中 9月集中 9月集中 | 2単位 2単位 2単位 | 白井キミカ 左瀬美恵子 津村智恵子 |
| [講義概要・学習目標] | <p>1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。</p> <p>2 成人・老人・障害者等の介護について理解させる。</p> <p>3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職へ連絡し協力するとともに、必要に応じてその手助けをすることができるようにする。</p> <p>4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。</p> | | | |
| [成績評価の方法] | レポート | | | |
| [教科書] | <p>編集代表 津村智恵子、白井キミカ 『介護実践ハンドブック』（日総研出版）定価3,500円</p> | | | |
| | <p>[講義計画]</p> <p>1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対するニーズと介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活ニーズと介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護</p> <p>2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食と排泄 3) 衣服の着脱 4) 入浴・身体の清潔と感染防止 5) 移動空間の確保 6) 健康習慣の獲得 7) 体力の維持（運動と機能維持） 8) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 9) 療養時の対応 10) 緊急・事故等の対応 11) 介護家族への生活維持援助</p> <p>3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方</p> <p>4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設</p> <p>[参考文献]</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-------------|--|------|------|---------------------------|
| 英語音声学 | | 通 期 | 4 単位 | ケビン グレグ Kevin R. Gregg |
| [講義概要・学習目標] | <p>本授業はつぎの二つの目的をもっている：</p> <p>(1) 音声学と音韻論という、言語学の下位分野の基礎的な概念や原理を学生諸君に学んでもらうこと</p> <p>(2) その概念や原理を英語の音韻体系に適用してもらうこと</p> <p>(1) については、例えばつぎの問題を取り上げる：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間言語における音（オン）は、どのようにして調音するのか ・ある個別言語では、二つの音が「同じ」か「違う」か、どう決めるのか ・人間言語の可能な音をどう分類すべきか ・発話する際、どのような規則に従っているのか <p>(2) については、つぎのような、より具体的問題を勉強する：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の音：その記述、その調音のしかた ・英語の音韻体系の主な規則 ・英語におけるストレス（強勢）とイントネーション | | | |
| [成績評価の方法] | <p>定期試験も複数の小テストも行なう。出席する義務は当然ないが、テキストがないからこそ、出席して念入りにノートをとらなければ、単位がとれる可能性は非常に低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりする学生は、早速除籍される。</p> | | | |
| [教科書] | <p>[参考文献]</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 日本語教授法Ⅰ | | 通 期 | 4 単位 | 有 川 康 二 |
| [講義概要・学習目標] <p>どんな教授法（教え方の哲学や方法）にも、どんな教科書にも長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い「使える日本語」を身につけてもらう為には、教える側に特別な知識と技術が必要となる。</p> <p>さらに「何故、外国語を学ぶのか、何故、日本語を外国語として教えるのか」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ち続けてほしい。</p> | [講義計画] <p><前期> 1.こそあど、2.い形容詞・な形容詞、3.存在、4.時制、5.～て、～て、6.～ている、7.希望・願望、8.提案・申し出・勧誘、9.可能形、10.経験、11.意志、12.許可・禁止 <後期> 13.様態、14.推量（ようだ・らしい）、15.理由・原因、16.逆接、17.～ている・～である・～ておく、19.授受動詞、20/21.受身・使役・使役受身、22.条件</p> | | | |
| [成績評価の方法] 出席・筆記試験 | [参考文献] 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社） | | | |
| [教科書] 東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 日本語教授法Ⅱ | 0 1 | 前 期 | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| | 0 2 | 後 期 | 2 単位 | |
| [講義概要・学習目標] <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。</p> <p>本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。</p> | [講義計画] <p>前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。</p> | | | |
| [成績評価の方法] 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。 | [参考文献] 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社） | | | |
| [教科書] 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 日本語教授法Ⅲ | | 通 期 | 2 単位 | 友 沢 昭 江 |
| 〔講義概要・学習目標〕 <p>本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</p> | 〔講義計画〕 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。 ・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外での教育実習（希望者）を行います。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一か月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。（各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。） | 〔参考文献〕 <ul style="list-style-type: none"> 『日本語教育論集』（吉田彌壽夫監修、学研） 『概説日本語教育』（遠藤織枝編、三修社） 『日本語教授法』（石田敏子、大修館書店） 『実践日本語教授法』（名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス） 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク） 『日本語教育への道』（土岐哲他、凡人社） | | | |
| 〔教科書〕 <p>教員の用意する配付物を使います。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 博物館概論 | | 後期 | 2 単位 | 種 田 明 |
| 〔講義概要・学習目標〕 <p>博物館とは何か、その社会的基盤や法的地位、教育的機能などを総合的に講義する。（毎回VTRを使用する。）日本の博物館の開館数は、1998年も約300館近くに上り、規模やテーマの各種各様の博物館が誕生している。これらの博物館が、研究者のみならず多くの人々に親しまれ活用されるためには、博物館に関する基礎的知識の習得が望まれよう。</p> <p>博物館法に基づく「学芸員」を志す諸君は、博物館の歴史と現状・博物館における人とのふれ合い（博物館法にいうリクリエーション、社会教育法にいう生涯学習）・博物館のコンセプトや法律などを十分にわきまえ、博物館について楽しみながら学んでほしい。</p> <p>なお、本学では博物館概論と博物館学各論（4）の2科目6単位を履修し、合格しなければ「博物館実習（3）」の登録はできない。（自由科目としての受講者は、最初に申し出てください。）</p> | 〔講義計画〕 <p>各回45分「放送大学」のVTRをみて、テーマに関連した講義・解説を行う。新聞・雑誌などからの記事のコピーも交え、博物館の本質について討議できれば、問題の所在が明らかになるであろう。</p> | | | |
| 〔成績評価の方法〕 <p>博物館見学レポート 2回 (30%) 試験<最終講義日> (60%) 出席 (10%) : 欠席5回は受験資格なし</p> | 〔参考文献〕 <p>講義中に提示する。</p> | | | |
| 〔教科書〕 <p>大塚知義『改訂版 博物館学Ⅰ』放送大学教育振興会、1994年</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 博物館学各論 | | 通 期 | 4 単位 | 水 口 薫 |
| 〔講義概要・学習目標〕 近年ミュージアム・マネージメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネージメント感覚が求められている。 本講義では「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報論」を内容とする。 博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育普及活動および情報の意義と活用方法についての理解を図る。 | 〔講義計画〕 (前期)「博物館経営論」 1 博物館の機能、組織、施設の基本的な考え方 2 ミュージアム・マネージメント、教育普及活動 「博物館資料論」 1 博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化 2 博物館資料の保存、展示(常設展示、企画展示) (後期) 3 資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識 「博物館情報論」 1 博物館における情報の意義、提供について 2 教育普及、情報、インターネットの活用方法 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 出席を兼ねた小テスト(適時)とレポート、定期試験にて総合評価。前・後期とも欠席6回の者は名簿抹消。 | 〔参考文献〕 適時、プリントを配布。 その他、講義のときに提示する。 | | | |
| 〔教科書〕 大堀 哲・小林達雄・端 信行・諸岡博熊(編) 『ミュージアム・マネージメント 博物館運営の方法と実践』 (東京堂出版 1996年) 加藤有次・椎名仙卓(編)『博物館ハンドブック』 (雄山閣 1993年(3版)) | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ |
|--|--|------|------|-----------|
| 博物館実習 I | | 9月集中 | 1 単位 | 松永 俊男 |
| 〔講義概要・学習目標〕 博物館資料の取り扱いや展示に関する基礎的なことを大学内で実習する。分野ごとに専門の教員が分担して指導する。 予定している実習は、「博物館資料の測定と作図」、「文書資料の取り扱い」、「美術品の取り扱い」、および「パソコンを利用した視聴覚資料の作成」である。 | 〔講義計画〕 9月の集中講義期間内に、5日間、連続で実施する。 詳細な日程は、追って発表する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 全出席が原則である。おもに実習ノートによって評価する。 | 〔参考文献〕 | | | |
| 〔教科書〕 | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ |
|---|--|-------|------|-----------|
| 博物館実習Ⅱ | | 集中コース | 1 単位 | 松永 俊男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館の多様性を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認をする。土曜、日曜、または休暇中に実施する。総計で12回、実施するが、そのうち4回は両コース共通、コース別にそれぞれ4回である。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。 両コース共通：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、 国立民族学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館。 産業文化コース：交通科学博物館、ガス科学館、UCCコーヒー博物館など。 東洋文化コース：大阪府立弥生文化博物館、大阪城天守閣など。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>おもに実習ノートによって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |

《インテグレーション科目》

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 チ ー フ |
|---|--|-------|------|-----------|
| 博物館実習Ⅲ | | 集中コース | 1 単位 | 松永 俊男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、堺市博物館などを予定している。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。</p> | <p>[参考文献]</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |